

【表紙】

【提出書類】 有価証券届出書の訂正届出書

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成29年3月15日

【発行者名】 T & Dアセットマネジメント株式会社

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 藤瀬 宏

【本店の所在の場所】 東京都港区芝五丁目36番7号

【事務連絡者氏名】 富岡 秀夫

【電話番号】 03-6722-4813

【届出の対象とした募集内国投資信託受益証券に係るファンドの名称】 リビング・アース戦略ファンド（年2回決算コース）

【届出の対象とした募集内国投資信託受益証券の金額】 当初募集額  
5,000億円を上限とします。  
継続募集額  
5,000億円を上限とします。

【縦覧に供する場所】 該当事項はありません。

**1【有価証券届出書の訂正届出書の提出理由】**

本日、有価証券報告書を提出いたしましたので、平成28年5月16日付をもって提出した有価証券届出書（以下「原届出書」といいます。）の関係情報を新たな情報に訂正するため、本訂正届出書を提出するものです。

**2【訂正の内容】**

<訂正前>および<訂正後>に記載している下線部\_\_\_\_は、訂正部分を示します。また<更新後>の記載事項は原届出書の更新後の内容を示し、<追加>の記載事項は原届出書の追加の内容を示します。

**第二部【ファンド情報】****第1【ファンドの状況】****1 ファンドの性格****(1) ファンドの目的及び基本的性格**

ファンドの特色

<更新後>

**● 外国投資証券を通じて、CATボンドに投資し、安定した投資成果の享受を目指します。**

CAT(Catastrophe=カタストロフィ/大災害の略)ボンドとは、相対的に高いクーポン収入が期待できる一方で、一定条件(マグニチュード等の災害規模や被災地域の範囲等)以上の大規模な自然災害(台風・洪水・地震等)が発生した場合に、投資家が受け取るクーポン収入や償還元本の一部または全部が毀損する可能性がある債券の一種です。(保険リンク証券の一種で、保険会社が引き受けたリスクを証券化した商品ともいわれています。)

一般的に自然災害は相互に連動しない傾向がありますが、ファンドでは組入れるCATボンドの自然災害の種類や地域を分散させ、安定した投資成果の享受を目指します。また、ファンドの投資対象地域に日本は含まれません。

●円建ての外国投資証券であるセキュリス II ファンド-SPC セグリゲイテッド・ポートフォリオ・セブンキャットボンド(クラスB JPY)および国内の証券投資信託であるマネーアカウントマザーファンド受益証券を主要投資対象とします。(以下、投資証券を含め「投資信託証券」ということがあります。)

●外国投資証券への投資割合は、資金動向や市況動向等を勘案して決定するものとし、外国投資証券の組入比率は原則として高位とすることを基本とします。

**● 実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。**

**● K2アドバイザーズ・ジャパン株式会社がファンドの運用のための情報の提供および助言等を行います。**

●実質的な運用(外国投資証券の運用)は、K2アドバイザーズ・ジャパン株式会社(以下「K2アドバイザーズ」ということがあります。)が厳選した保険リンク証券投資の専門運用会社の大手であるセキュリス・インベストメント・パートナーズ・エルエルピー(以下「セキュリス社」ということがあります。)が行います。

**● 購入・換金申込の受付期間を設け、原則として隔週1回約定します。**

●ディーリング日の翌ファンド取引日を約定日とします。

「ディーリング日」とは、外国投資証券のディーリング日を指し、平成28年7月11日を起点とする隔週の月曜日のことをいいます。当該ディーリング日がファンド取引不可日の場合は翌ファンド取引日とします。

●約定日毎に購入・換金申込の受付期間を設け、当該受付期間に受付けた申込を当該約定日に約定するものとします。

詳しくは、後掲「追加的記載事項」の「購入・換金のお申込みについて」をご参照ください。

**● 原則として、年2回決算を行います。**

資金動向や市況動向等によっては、上記のような運用が行われない場合があります。

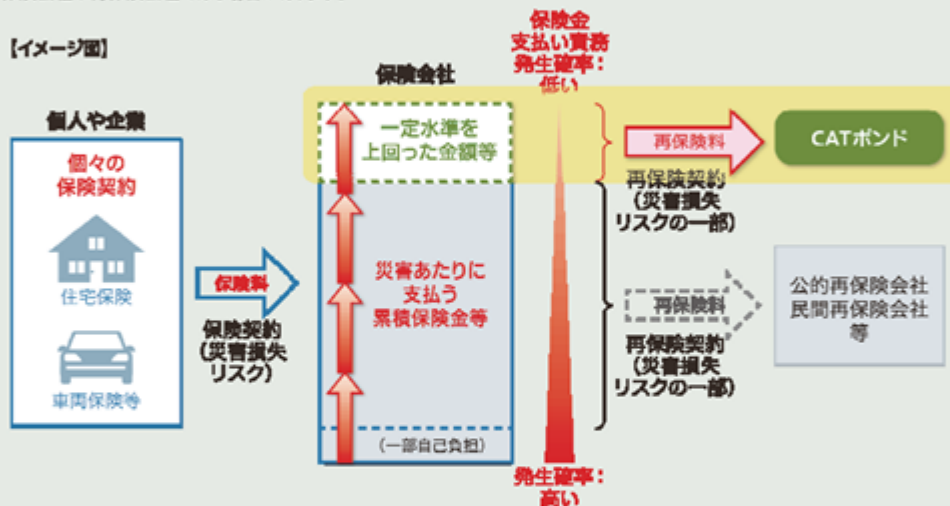
### \*ご留意事項

CATボンドの発行体は、保険会社が保険契約を通じて引き受けた自然災害(台風、洪水、地震等)によって生じる損害を補てんする保険金の中で、一定水準を上回った金額を支払う責務を引き受けることで、その対価として保険会社から保険料を受取ります。この受取り保険料等を利払い原資として、発行体はCATボンドを発行しています。

自然災害の発生によって生じる損失リスクの一部を引き受けるため、再保険契約で規定されている地域で大きな台風、洪水、地震等が発生(発生の可能性を含む)した際には、CATボンドの価格が値下がりの可能性があります。また、当該CATボンドをファンドに組み入れている場合は、ファンドの基準価額が下落する可能性があります。また、契約に該当する大規模な自然災害が発生し、発行体が保険金を支払う責務を負った場合には、その発行体が発行したCATボンドのクーポン収入や償還元本の一部または全部が毀損する可能性があります。当該CATボンドをファンドに組み入れている場合は、ファンドの基準価額が下落する可能性があることにご留意ください。

\* 保険会社は再保険会社である場合があります。

【イメージ図】



上記はイメージ図であり、実際とは異なる場合があります。

### CATボンドの発行の仕組み(一般的な例)



## CATボンドと一般的な社債の違い

	CATボンド	一般的な社債
発行体	<b>特別目的事業体(SPV)</b> 主に自然災害発生に起因する損害再保険契約を有します。	企業(事業会社や金融機関等)
満期までの期間	<b>短期</b> (市場平均残存2年程度)	短期、中期、長期、超長期とさまざま
クーポン金利	<b>主に変動金利(=短期金利+上乗せ金利)</b> 発行体を受取る保険料収入に応じて決定される <b>上乗せ金利<sup>※1</sup></b> は、元利金の毀損事由が発生しない限り、満期日まで変わりません。	<b>固定金利または変動金利あるいはその両方</b> 金利水準は、債券発行時に市場金利の水準と発行体の信用力(信用格付水準や財務状況)等に応じて決定します。
市場平均利回り	予測困難といわれる大規模な自然災害が発生し、発行体が再保険契約に基づいて保険会社に対する保険金支払い義務を負った場合には、CATボンドの元利金が毀損する可能性があるため、一般的な社債と比べCATボンドのクーポン水準は高く設定される傾向があります。	
元利金の毀損事由	再保険契約に規定している大規模な自然災害が発生し、 <b>発行体に保険金支払い義務<sup>※2</sup>が生じた場合に、元利金の一部または全部が毀損</b> します。	発行体が破たんや債務再編等により債務を履行しなかった場合に、 <b>元利金の一部または全部が毀損</b> します。
主な価格変動要因	再保険契約に規定している <b>自然災害の発生(またはその可能性)の有無</b>	発行体の信用力の変化やその可能性あるいは市場金利の変動の有無
景気や金融市場との連動性	<b>相対的に低い</b> 主に自然災害の発生(またはその可能性)に起因する保険金支払い義務の有無(またはその可能性)によって価格が変動するため	相応に連動性あり
流動性(市場規模)	一般的に発行金額が小さく、流通金額も小さいため、流動性は <b>相対的に低い</b>	発行金額や流通金額によって流動性が <b>高いものもあれば低いものもある</b>

※1 保険会社が予想する再保険契約で規定している自然災害の発生による損害率によって、契約締結時に受取る保険料収入の水準が決定されます。例えば、前年に類似事象が発生していた際には、新たに発行されるCATボンドの上乗せ金利は高く設定される傾向にあります。

※2 発行体に保険金支払い義務が生じるのは、一般的に、発生予測が難しいといわれる自然災害の中で、再保険契約に規定された事象が起こり、それに伴う保険金支払総額が一定水準を上回った場合に限りです。

## CATボンドの信用格付について

CATボンドの信用格付は、一般的な債券のように主に発行体の財務状況の分析等に基づいて付与されるのではなく、ストラクチャード・ファイナンス(証券化商品)の一つとして、主に発行体が締結した再保険契約から算出される期待損益の分析等に基づいて付与されます。付与された信用格付の符号の後には「sf」が付記されており、CATボンドと一般的な債券を単純に信用格付の水準で比較することは適切ではないと考えられます。なお事業会社や金融機関等と異なり、CATボンドの発行体は当該債券発行のためだけに設立された事業体であるため、金銭的・物理的側面にも鑑みて、信用格付会社より信用格付を取得する事例は現行半数以下となっています。CATボンドに対する評価基準としては、信用格付の代わりに、保険業界で用いられている三大保険モデル(RMS、AIR、EQECAT)から提供されるものが活用されています。

## K2アドバイザーズ・ジャパンについて

- 世界最大級の独立系資産運用会社フランクリン・テンブルトン・グループの子会社でありゲートキーパー<sup>※</sup>業務に20年以上特化して行っているK2アドバイザーズの、日本における100%子会社です。
- 2008年9月に日本法人設立、2009年3月に投資運用業、投資助言業の登録(2010年3月に投資助言・代理業の登録)を行い、2016年12月時点で年金基金を中心に日本のお客様からK2グループ全体で約1,700億円の資金の運用を受託しています。

※ ゲートキーパーは、マネージャー・オブ・マネージャーズとも呼ばれ、ファンド・オブ・ファンズが投資する投資信託証券等を運用するマネージャーの選択や、ファンド・オブ・ファンズが投資する投資信託証券等の分析や運用のモニタリング等を行い、パフォーマンス等についての情報提供等を行います。プライベート・エクイティ投資やオルタナティブ投資等のアドバイスを行う専門家でもあります。



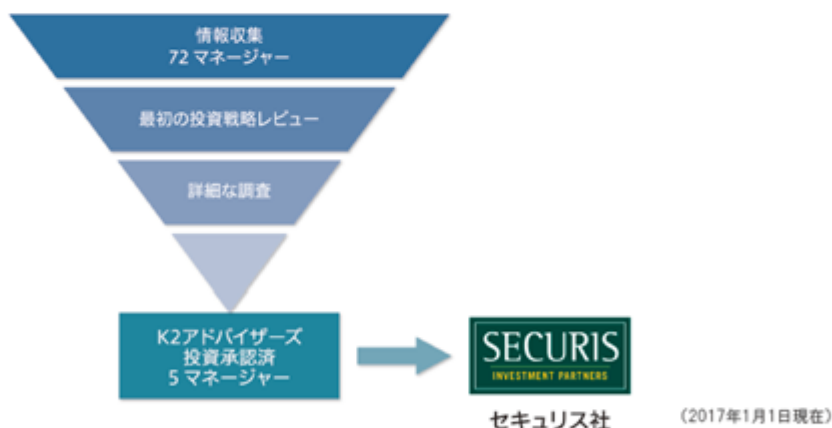
K2 ADVISORS

### K2アドバイザーズ

- 1994年設立
- 本社は米国コネチカット州スタンフォード
- 運用資産総額 約95億米ドル(約1.1兆円)
- 38名の投資専門家(ファンドマネージャーやアナリスト等)
- 運用資産総額の約8割が機関投資家向け
- 米国、英国、日本、オーストラリア、香港に拠点
- グローバルに多彩なヘッジファンドやニッチ戦略を行うマネージャーへのアクセスが可能  
(2017年1月1日現在)

## K2アドバイザーズによる運用会社の選定プロセス

- CATボンドの実質的な運用(外国投資証券の運用)を行う運用会社(マネージャー)は下記のプロセスや投資する価値やリスクに対する詳細な調査を経て、K2アドバイザーズでは5マネージャーを承認しています。その中で厳選された1社がセキュリス社となります。(変更となる可能性もあります。)



## セキュリス・インベストメント・パートナーズ・エルエルピーについて

- 2005年4月設立、英国 ロンドンに本社を置く保険リンク証券投資の専門運用会社の大手であり、運用残高は約41億米ドル(約4,700億円)
- 保険リンク証券投資において最大規模かつ経験豊かな投資チーム(48名)
- 再保険市場のメッカ(ロイズ保険市場)が存在するロンドンに主拠点
- 再保険会社を株主に置かない独立した組織
- CATボンドの銘柄選定に関しては、利回り水準、期待損失(自然災害発生時に予想される損害の発生確率)、ポートフォリオの分散等の観点を重視し、運用を行っています。  
(2017年1月1日現在)

資金動向や市況動向等によっては、上記のような運用が行われない場合があります。

## 購入・換金のお申込みについて

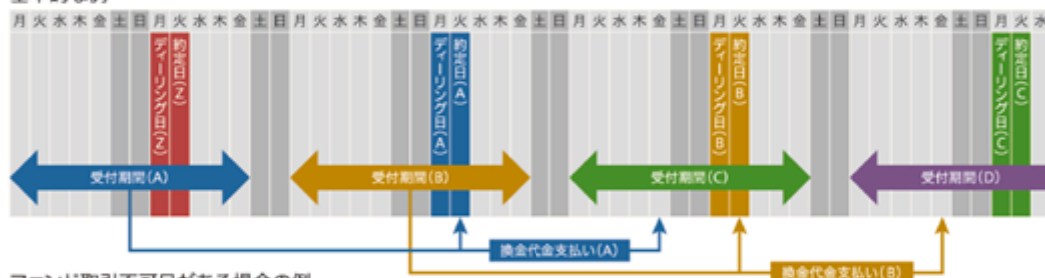
- 約定日毎に購入・換金申込の受付期間を設け、当該受付期間に受付けた申込を当該約定日に約定するものとします。

ファンド取引日	ロンドン、ダブリンの銀行の営業日の双方に該当する日で、かつ国内の営業日をいいます。ただし、上記にかかわらず12月24日は休業日とします。
約定日	ディーリング日の翌ファンド取引日を約定日とします。「ディーリング日」とは、外国投資証券のディーリング日を指し、平成28年7月11日を起点とする隔週の月曜日のことをいいます。当該ディーリング日がファンド取引不可日の場合は翌ファンド取引日とします。
購入・換金申込の受付期間	約定日毎に購入・換金申込の受付期間を設け、当該受付期間に受付けた申込を当該約定日に約定するものとします。 継続申込期間における最初の当該受付期間は平成28年6月22日から平成28年7月1日までとし、当該受付期間に受付けたお申込み分につき、ディーリング日は平成28年7月11日、約定日は平成28年7月12日となります。 上記以降の当該受付期間は前受付期間終了の翌ファンド取引日から次回約定日の7ファンド取引日前までとし、当該受付期間に受付けたお申込み分の約定日は平成28年7月25日以降隔週のディーリング日の翌ファンド取引日となります。 上記受付期間、ディーリング日、約定日の組合せは、順次到来するもの同士となります。

### ●お申込みのイメージ

<p><b>【継続申込期間における例(購入)】</b> 受付期間(A)にお申込みいただいたお客様は、約定日(A)の基準価額で約定となります。</p> <p><b>【継続申込期間における例(換金)】</b> 受付期間(A)にお申込みいただいたお客様は、約定日(A)の基準価額で約定となり、換金代金支払い(A)の日に換金代金をお支払いいたします。(換金代金の支払いは原則として約定日から起算して9営業日目(国内の営業日)からのお支払いとなります。)</p>
--

#### 基本的な例



#### ファンド取引不可日がある場合の例



下記はあくまで上記 2 図を比較してご説明した一例ですので、詳しくは販売会社にお問い合わせください。

#### 受付期間(A)について

- ※1 月曜日がファンド取引不可日であるため、翌ファンド取引日である火曜日がディーリング日となります。
- ※2 ディーリング日が動いたため、約定日も翌ファンド取引日である水曜日となります。
- ※3 約定日が動いたため、換金代金支払いの日が翌ファンド取引日である月曜日となります。

#### 受付期間(B)について

- ※4 ディーリング日がファンド取引不可日でないため、基本的な例と変わりません。
- ※5 火曜日がファンド取引不可日であるため、翌ファンド取引日である水曜日が約定日となります。
- ※6 約定日が動いたため、換金代金支払いの日が翌ファンド取引日である月曜日となります。

#### 受付期間(C)について

- ※7 当該約定日までの間にファンド取引不可日が1日あるため、期間終了日が1営業日前倒しとなります。

#### 受付期間(D)について

- ※8 前期間終了日が動いたため、期間開始日が1営業日前倒しとなります。

※9 ロンドン、ダブリンの銀行のいずれかの休業日で、かつ国内の営業日の場合、換金代金支払い(B)までの日数に含まれます。

## 投資する投資証券の概要

ファンド名	セキュリス II ファンド-SPC セグリゲイテッド・ポートフォリオ・セブン・キャットボンド(クラスB JPY)
分類	ケイマン籍/外国投資証券/円建
設定日	2016年6月27日
運用基本方針 主な投資対象	主としてCATボンドに投資を行い、安定的なインカム収益の獲得と信託財産の成長を目指して運用を行います。
投資態度	①主としてCATボンドを投資対象とし、安定した投資成果の享受を目指します。 ②組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。 ③資金動向や市況動向等によっては、上記のような運用が行われない場合があります。
主な投資制限	①店頭オプション、上場オプション、ETFに原則として直接投資を行いません。 ②有価証券の空売りは行いません。 ③純資産総額の10%を超える借入れは行いません。
決算日	12月31日
外投営業日	ロンドン、ダブリン、東京の銀行のすべてが営業を行っている日
ディーリング日	平成28年7月11日を起点とする隔週の月曜日(休業日の場合は翌外投営業日)
分配方針	平成28年11月28日を起点として、原則として、2月、5月、8月および11月の最終ディーリング日に分配を行います。(休業日の場合は翌外投営業日)
信託報酬等	純資産総額の年0.737%程度。内訳は以下の通りとします。 運用報酬:年0.65%程度 管理事務代行報酬:年0.07%程度および月額2,500米ドル程度 保管受託報酬:年0.017%程度
その他費用	上記信託報酬等の他、その他費用として売買時の売買委託手数料、設立に係る費用、外国投資証券の監査費用等がかかります。これらの費用・手数料については、運用状況等により変動するものであり、事前に料率・上限額等を示すことができません。
投資顧問会社	セキュリス・インベストメント・パートナーズ・エルエルピー
管理会社	セキュリス・インベストメント・パートナーズ・リミテッド
管理事務代行会社	シトコ・ファンド・アドミニストレーション(ケイマン・アイランズ)リミテッド
副管理事務代行会社	シトコ・ファンド・サービスズ(アイルランド)リミテッド
保管銀行	シティバンク、エヌ・エイ ロンドン支店/スミトモ ミツイ トラスト(ユーケー)リミテッド
監査法人	アーンスト・アンド・ヤング
ファンド名	マネーアカウントマザーファンド
分類	親投資信託
設定日	2010年2月26日
運用基本方針	安定した収益の確保を目標として運用を行います。
主な投資対象	わが国の国債、公社債および短期金融商品
主な投資制限	①株式への投資は行いません。 ②外貨建資産への投資は行いません。
分配方針	分配は行いません。
決算日	6月、12月の各10日(休業日の場合は翌営業日)
委託会社	T&Dアセットマネジメント株式会社

各概要は、2016年12月末日現在のものであり、今後変更になることがあります。

**(2) ファンドの沿革**

&lt; 訂正前 &gt;

平成28年6月22日 信託契約締結、ファンドの設定、運用開始(予定)

&lt; 訂正後 &gt;

平成28年6月22日 信託契約締結、ファンドの設定、運用開始

**(3) ファンドの仕組み**

委託会社の概況

&lt; 訂正前 &gt;

a . 資本金

平成28年3月末日現在 11億円

(略)

c . 大株主の状況

平成28年3月末日現在

(略)

&lt; 訂正後 &gt;

a . 資本金

平成28年12月末日現在 11億円

(略)

c . 大株主の状況

平成28年12月末日現在

(略)

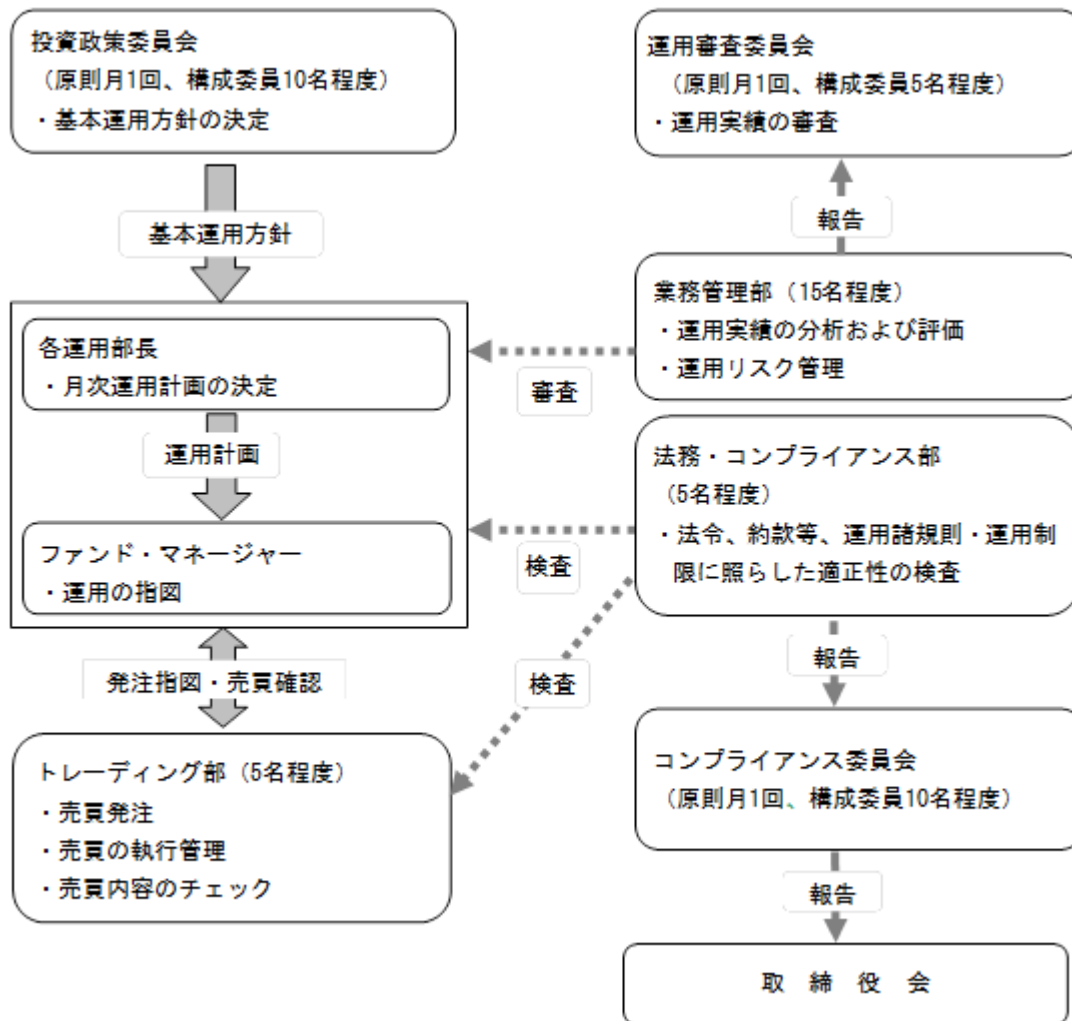


## 2 投資方針

## (3) 運用体制

&lt;訂正前&gt;

委託会社の運用体制は以下の通りです。



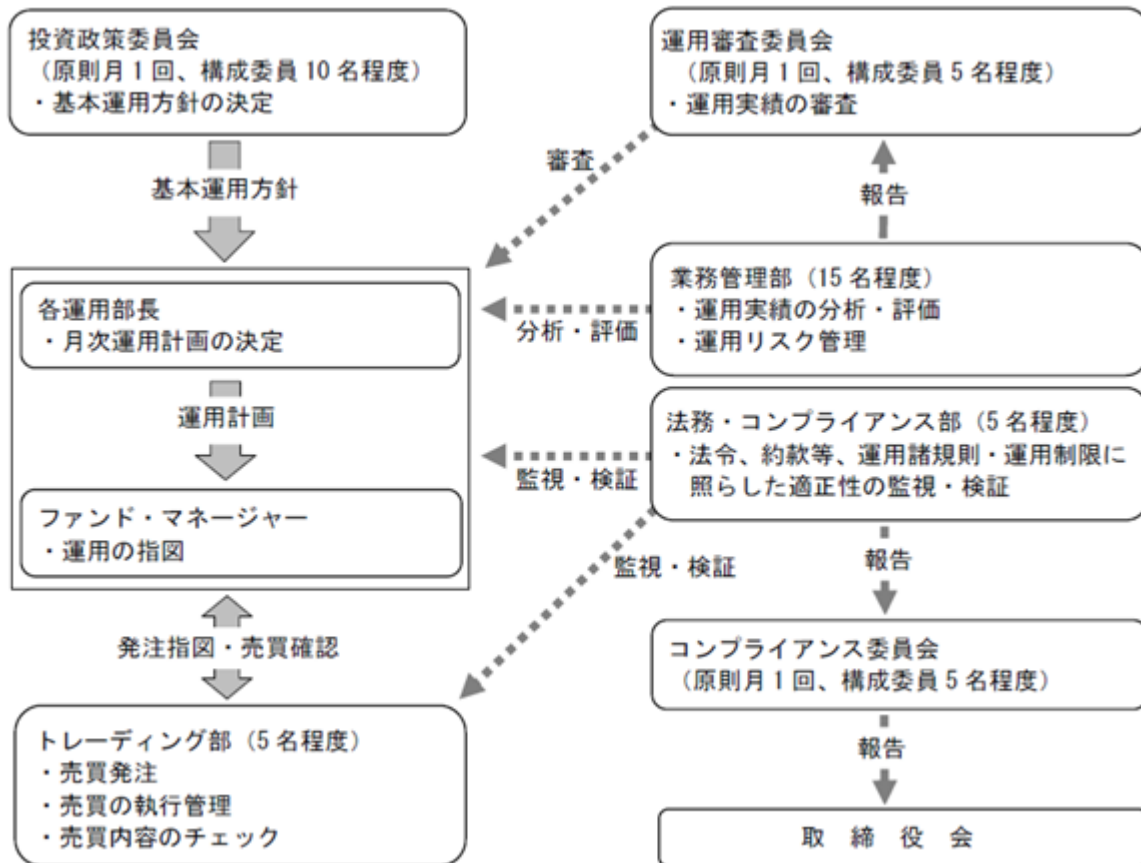
個別ファンドの運用計画については、ファンド・マネージャーが組入比率等の計画を立案し、各運用部長の承認を経て実施されます

受託会社に対しては、日々の純資産照合等を行っています。また、内部統制の有効性に関する報告書を定期的に受け取っています。

委託会社の運用体制等は平成28年3月末日現在のものであり、今後変更となる場合があります。

< 訂正後 >

委託会社の運用体制は以下の通りです。



個別ファンドの運用計画については、ファンド・マネージャーが組入比率等の計画を立案し、各運用部長の承認を経て実施されます

受託会社に対しては、日々の純資産照合等を行っています。また、内部統制の有効性に関する報告書を定期的に受け取っています。

委託会社の運用体制等は平成28年12月末日現在のものであり、今後変更となる場合があります。

### 3 投資リスク

#### (3) リスクの管理体制

<訂正前>

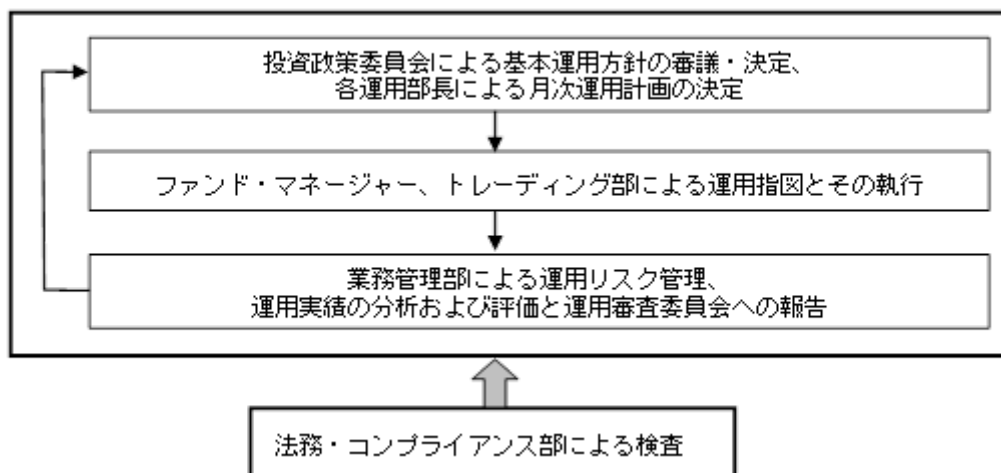
委託会社では、運用部門は定められた運用プロセスを通じて投資リスクを管理します。

また、運用部門から独立した部門がファンドのパフォーマンス評価・分析および法令・運用諸規則等に照らした適正性の審査等の結果について、各種委員会等に報告を行い、必要に応じて適切な措置を講じる体制となっております。

委託会社のリスクの管理体制は以下の通りです。

委託会社は、社内規程において投資リスクに関する取扱い基準およびその管理体制についても定めており、下記の運用体制のサイクル自体が、投資リスクの管理体制を兼ねたものとなっています。

- ・ファンド・マネージャーは定期的に、投資環境および市況見通し、ポートフォリオの状況および運用成果等をモニタリングして運用リスクの管理を行いつつ、原則として月次にて（投資環境および市況の著しい変化等に対応する場合には随時）運用計画の見直しを行い、各運用部長による承認を経て、実際の運用指図を行い、トレーディング部がその執行を行っています。
- ・業務管理部は、運用リスク管理を所管するとともに、ファンドのパフォーマンス評価・分析等ファンドの運用に関する審査を月次にて行い、運用審査委員会に報告を行うことにより、運用成績の改善のサポートを行っています。
- ・法務・コンプライアンス部は、法令、約款等、運用諸規則・運用制限に照らした適正性の検査を行い、コンプライアンス委員会および取締役会に報告を行っています。



リスクの管理体制は平成28年3月末日現在のものであり、今後変更となる場合があります。

<訂正後>

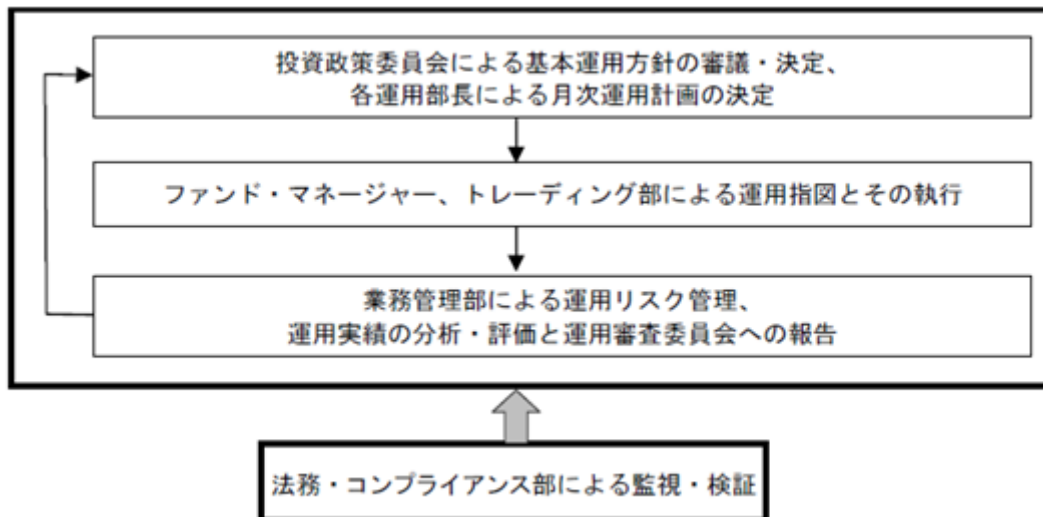
委託会社では、運用部門は定められた運用プロセスを通じて投資リスクを管理します。

また、運用部門から独立した部門がファンドのパフォーマンス分析・評価および法令・運用諸規則等に照らした適正性の審査等の結果について、各種委員会等に報告を行い、必要に応じて適切な措置を講じる体制となっております。

委託会社のリスクの管理体制は以下の通りです。

委託会社は、社内規程において投資リスクに関する取扱い基準およびその管理体制についても定めており、下記の運用体制のサイクル自体が、投資リスクの管理体制を兼ねたものとなっております。

- ・ファンド・マネージャーは定期的に、投資環境および市況見通し、ポートフォリオの状況および運用成果等をモニタリングして運用リスクの管理を行いつつ、原則として月次にて（投資環境および市況の著しい変化等に対応する場合には随時）運用計画の見直しを行い、各運用部長による承認を経て、実際の運用指図を行い、トレーディング部がその執行を行っています。
- ・業務管理部は、運用リスク管理を所管するとともに、ファンドのパフォーマンス分析・評価等を月次にて行い、運用審査委員会に報告を行うことにより、運用成績の改善のサポートを行っています。
- ・法務・コンプライアンス部は、法令、約款等、運用諸規則・運用制限に照らした適正性の監視・検証を行い、コンプライアンス委員会および取締役会に報告を行っています。



リスクの管理体制は平成28年12月末日現在のものであり、今後変更となる場合があります。

参考情報

&lt; 更新後 &gt;

## 代表的な資産クラスとの騰落率の比較

&lt; ファンドの年間騰落率及び分配金再投資基準価額の推移 &gt;



(注)ファンドの年間騰落率及び分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算した基準価額が記載されており、実際の基準価額及び実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

\* 右のグラフは、2012年1月から2016年12月の5年間の各月末における直近1年間騰落率の平均・最大・最小を、ファンド及び他の代表的な資産クラスについて表示したものです。

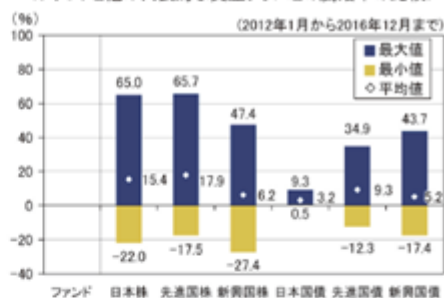
\* 右のグラフは、ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものであり、全ての資産クラスがファンドの投資対象とは限りません。

\* 上記の騰落率は2016年12月末から遡って算出した結果であり、ファンドの決算日に対応した数値とは異なります。

\* ファンドは2016年6月に設定されたため、ファンドの騰落率、分配金再投資基準価額は2016年6月以降のデータをもとに表示しております。

なお、ファンドの騰落率につきましては、2016年6月に設定されたため、記載しておりません。

&lt; ファンドと他の代表的な資産クラスとの騰落率の比較 &gt;



## ○各資産クラスの指数

- 日本株・・・東証株価指数(TOPIX)(配当込み)
- 先進国株・・・MSCIロクサイ・インデックス(配当込み、円ベース)
- 新興国株・・・MSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み、円ベース)
- 日本国債・・・NOMURA-BPI国債
- 先進国債・・・シティ世界国債インデックス(除く日本、円ベース)
- 新興国債・・・JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバーシファイド(円ベース)

(注)海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円ベースの指数を採用しております。

\* 詳細は「指数に関して」をご参照ください。

## ●指数に関して

## ○「代表的な資産クラスとの騰落率の比較」に用いた指数について

## 東証株価指数(TOPIX)(配当込み)

東証株価指数(TOPIX)とは、東証第一部上場全銘柄の時価総額を基準時の時価総額で除して算出したわが国の株式市場全体の値動きを表す代表的な株価指数です。TOPIXに関する一切の知的財産権その他一切の権利は株式会社東京証券取引所に帰属します。

## MSCIロクサイ・インデックス(配当込み、円ベース)

MSCIロクサイ・インデックスはMSCIが開発した株価指数で、日本を除く世界の先進国の株式市場の動きを捉える指数です。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCIに帰属します。

## MSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み、円ベース)

MSCIエマージング・マーケット・インデックスは、MSCIが開発した新興国の株式市場の動きを捉える株価指数です。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCIに帰属します。

## NOMURA-BPI国債

NOMURA-BPI国債は、野村證券株式会社が公表している指数で、日本で発行されている公募利付国債の市場全体を表す投資収益指数です。その知的財産権は野村證券株式会社に帰属します。なお、野村證券株式会社は、対象インデックスを用いて行われるT&Dアセットマネジメント株式会社の事業活動・サービスに関し一切責任を負いません。

## シティ世界国債インデックス(除く日本、円ベース)

シティ世界国債インデックス(除く日本、円ベース)は、シティグループ・インデックスLLCが開発した、日本を除く世界主要国の国債の総合利回りを各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はシティグループ・インデックスLLCに帰属します。

## JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバーシファイド(円ベース)

JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバーシファイドは、JPモルガン社が算出し公表している、現地通貨建てのエマージング・マーケット債で構成されている指数です。同指数の著作権はJPモルガン社に帰属します。

## 4 手数料等及び税金

### (4) その他の手数料等

< 訂正前 >

信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用および受託会社の立替えた立替金の利息は、受益者の負担とし、ファンドの信託財産中から支弁します。

信託財産の財務諸表に係る監査費用（税込）は、信託報酬支弁のとき信託財産中から支弁します。

証券取引に伴う手数料、組入資産の保管等に要する費用等は、信託財産が負担します。また、組入外国投資証券においても、売買時の売買委託手数料、設立に係る費用、監査費用等がかかります。

（略）

< 訂正後 >

信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用および受託会社の立替えた立替金の利息は、受益者の負担とし、ファンドの信託財産中から支弁します。

信託財産の財務諸表に係る監査費用（税込）は、信託財産中から支弁します。

証券取引に伴う手数料、組入資産の保管等に要する費用等は、信託財産中から支弁します。また、組入外国投資証券においても、売買時の売買委託手数料、設立に係る費用、監査費用等がかかります。

（略）

### (5) 課税上の取扱い

< 訂正前 >

ファンドは、課税上は株式投資信託として取扱われます。

公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度の適用対象です。

個人の受益者に対する課税

（略）

< 少額投資非課税制度「愛称：NISA（ニーサ）」をご利用の場合 >

少額投資非課税制度「NISA（ニーサ）」は、平成26年1月1日以降の非課税制度です。NISAをご利用の場合、毎年、年間120万円の範囲で新たに購入した公募株式投資信託等から生じる配当所得および譲渡所得が5年間非課税となります。他の口座で生じた配当所得や譲渡所得との損益通算はできません。ご利用になれるのは、満20歳以上の方で、販売会社で非課税口座を開設する等、一定の条件に該当する方が対象となります。

平成28年4月1日以降、20歳未満の方を対象とした「ジュニアNISA」（上限年間80万円）が開始されています。

詳しくは販売会社にお問い合わせください。

（略）

## 法人の受益者に対する課税

収益分配金のうち課税扱いとなる普通分配金ならびに換金時および償還時の個別元本超過額については、15.315%（所得税15%および復興特別所得税0.315%）の税率により源泉徴収が行われます（地方税の源泉徴収はありません。）。

なお、益金不算入制度の適用はありません。

（略）

税金の取扱いについては、平成28年4月末日現在のものであり、税法が改正された場合等には、税率等が変更される場合があります。

詳細については、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

## &lt;訂正後&gt;

ファンドは、課税上は株式投資信託として取扱われます。

公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度の適用対象です。

## 個人の受益者に対する課税

（略）

少額投資非課税制度「愛称：NISA（ニーサ）」および未成年者少額投資非課税制度「愛称：ジュニアNISA」をご利用の場合

NISAおよびジュニアNISAは、毎年、一定額の範囲で新たに購入した公募株式投資信託等から生じる配当所得および譲渡所得が一定期間非課税となります。ご利用になれるのは、販売会社で非課税口座を開設する等、一定の条件に該当する方が対象となります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

（略）

## 法人の受益者に対する課税

収益分配金のうち課税扱いとなる普通分配金ならびに換金時および償還時の個別元本超過額については、15.315%（所得税15%および復興特別所得税0.315%）の税率により源泉徴収が行われます（地方税の源泉徴収はありません。）。

（略）

税金の取扱いについては、平成28年12月末日現在のものであり、税法が改正された場合等には、税率等が変更される場合があります。

詳細については、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

## 5 運用状況

&lt; 更新後 &gt;

## (1) 投資状況

資産の種類別、地域別の投資状況

(平成28年12月30日現在)

資産の種類	国 / 地域	時価合計 (百万円)	投資比率 (%)
投資証券	ケイマン諸島	2,719	99.68
親投資信託受益証券	日本	0	0.00
現金・預金・その他の資産 (負債差引後)	日本	9	0.32
合計 (純資産総額)	-	2,728	100.00

(注) 投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率をいいます。

(小数点以下第3位を四捨五入して算出しております。)

現金・預金等には未収・未払項目が含まれるため、一時的にマイナスとなる場合があります。

## (2) 投資資産

投資有価証券の主要銘柄

イ. 評価額上位銘柄 (全銘柄)

(平成28年12月30日現在)

	国 / 地域	種類	銘柄名	券面総額	簿価単価	時価単価	投資比率 (%)	
					(円)	(円)		
					簿価金額	時価金額		
					(円)	(円)		
1	ケイマン諸島	投資証券	セキュリス ファンド-SPC セグリゲイテッド・ポートフォリオ・ セブン-キャットボンド (クラスB JPY)	269,562.489	10,083.360 2,718,097,962	10,087.484 2,719,207,294	99.68	
2	日本	親投資信託 受益証券	マネーアカウントマザーファンド	99,632	1.0033 99,960	1.0032 99,950	0.00	

(注) 1 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する各銘柄の評価額比率です。

2 投資証券における券面総額欄の数値は、証券数を表示しております。

親投資信託受益証券における券面総額欄の数値は、口数を表示しております。

ロ. 投資有価証券の種類別比率

(平成28年12月30日現在)

種類	投資比率 (%)
投資証券	99.68
親投資信託受益証券	0.00
合計	99.68

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する各種類の評価額比率です。

投資不動産物件

該当事項はありません。

その他投資資産の主要なもの

該当事項はありません。



**(3) 運用実績**

## 純資産の推移

平成28年12月末日及び同日前1年以内における各月末及び各計算期間末日の純資産の推移は次の通りです。

	純資産総額 (分配落) (単位:百万円)	純資産総額 (分配付) (単位:百万円)	1口当たりの 純資産額 (分配落) (単位:円)	1口当たりの 純資産額 (分配付) (単位:円)
平成28年6月末日	464	-	1.0001	-
平成28年7月末日	977	-	1.0044	-
平成28年8月末日	1,393	-	1.0099	-
平成28年9月末日	2,103	-	1.0194	-
平成28年10月末日	2,316	-	1.0213	-
平成28年11月末日	2,622	-	1.0239	-
第1期 計算期間 (平成28年12月15日現在)	2,728	2,728	1.0220	1.0220
平成28年12月末日	2,728	-	1.0219	-

## 分配の推移

	1口当たりの分配金(円)
第1期 計算期間(平成28年12月15日)	0.0000

## 収益率の推移

	収益率(%)
第1期 計算期間(平成28年6月22日 ~ 平成28年12月15日)	2.20

(注) 収益率とは、計算期間末の基準価額(分配付の額)から当該計算期間の直前の計算期間末の基準価額(分配落の額。以下「前期末基準価額」といいます。)を控除した額を前期末基準価額で除して得た額に100を乗じて得た数字です。なお、第1期計算期間においては、前期末基準価額(1万口当たり)を1万円として計算しています。(小数点以下第3位を四捨五入して算出しております。)

**(4) 設定及び解約の実績**

	設定口数	解約口数
第1期 計算期間(平成28年6月22日 ~ 平成28年12月15日)	2,669,518,418	-

(注) 1 第1期計算期間の設定口数には、当初申込期間がある場合の当該設定口数を含みます。

2 設定口数および解約口数は、全て本邦内におけるものです。

**（参考）マネーアカウントマザーファンドの状況****（1）投資状況**

親投資信託資産の種類別、地域別の投資状況

（平成28年12月30日現在）

資産の種類	国名	時価合計（百万円）	投資比率（％）
現金・預金・その他の資産（負債差引後）	日本	1,233	100.00
合計（純資産総額）	-	1,233	100.00

（注）投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率をいいます。

（小数点以下第3位を四捨五入して算出しております。）

**（2）投資資産**

投資有価証券の主要銘柄

該当事項はありません。

投資不動産物件

該当事項はありません。

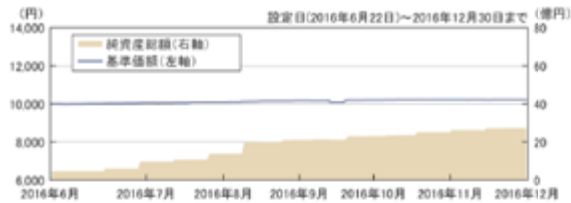
その他投資資産の主要なもの

該当事項はありません。

## （参考）運用実績

2016年12月30日現在

## 基準価額・純資産の推移



※基準価額は信託報酬控除後です。

## 分配の推移(1万口当たり、税引前)

2016年12月	0円
—	—
—	—
—	—
—	—
設定来累計	0円

## 主要な資産の状況

## ●投資比率

セキュリス II ファンド-SPC セグリゲイテッド・ポートフォリオ・セブン・キャットボンド (クラスB ,JPY)	99.7%
マネーアカウンタマザーファンド	0.0%
現金・預金等	0.3%
合計	100.0%

※比率は、表示桁数未満を四捨五入しているため、合計の数値が必ずしも100とはなりません。  
※現金・預金等には未収・未払項目が含まれるため、一時的にマイナスとなる場合があります。

## ●「セキュリス II ファンド-SPC セグリゲイテッド・ポートフォリオ・セブン・キャットボンド」における運用状況

当ファンドは「セキュリス II ファンド-SPC セグリゲイテッド・ポートフォリオ・セブン・キャットボンド」を構成するクラスの一つである「クラスB ,JPY」に投資を行います。

## ＜組入上位10銘柄＞

	銘柄名(銘柄数 50)	クーポン	償還日	比率	自然災害の種類、地域等
1	EVERGL 144A FLOAT 2017-04-28	7.628%	2017/4/28	6.5%	米国 暴風 — フロリダ
2	SANDRE 144A FLOAT 2018-05-25	3.598%	2018/5/25	4.6%	米国 暴風 — フロリダを除く、米国 地震 — カリフォルニア、NY、ワシントン
3	KILREL 144a FLOAT 2019-12-06	7.268%	2019/12/6	4.3%	米国/カナダ 暴風/地震
4	ACORNR FLOAT 2018-07-17	4.183%	2018/7/17	3.9%	米国/カナダ 地震
5	GALRE 144A FLOAT 2018-01-08	13.982%	2018/1/8	3.5%	米国 暴風/地震、カナダ 地震、欧州 暴風
6	EVERGL 144A FLOAT 2018-05-03	5.748%	2018/5/3	3.5%	米国 暴風 — フロリダ
7	RESID C11 144A FLOAT 2020-06-06	5.268%	2020/6/6	3.4%	米国 全ての自然災害
8	SANDRE 144@ 144A FLOAT 2019-05-28	4.388%	2019/5/28	3.1%	米国 暴風 — フロリダを除く、米国 地震 — カリフォルニア、NY、ワシントン
9	QUEEST 144A FLOAT 2022-04-08	6.410%	2022/4/8	3.1%	米国/欧州 暴風
10	ALALTD 144A FLOAT 2017-06-07	5.718%	2017/6/7	3.1%	米国 暴風 — テキサス

※クーポンは、変動金利(=短期金利+上乗せ金利)で、セキュリス・インベストメント・パートナーズ・エルエルビーより入手したデータをもとに計算しています。  
発行体が受取る保険料収入に応じて決定される上乗せ金利は、元利金の毀損事由が発生しない限り、満期日まで変わりません。

## ＜自然災害の種類別比率上位＞

種類	比率
複合	50.7%
暴風	33.1%
地震	8.4%

## ＜地域別比率上位＞

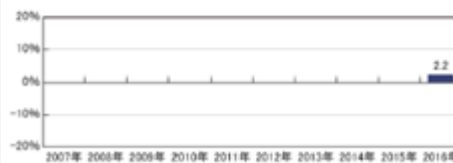
地域	比率
米国	56.6%
米国、カナダ	13.8%
米国、カナダ、欧州	6.9%
米国、欧州	5.4%
米国、カナダ、欧州、オーストラリア	5.3%
その他の地域	4.2%

投資対象ファンドの運用概況は、K2アドバイザーズ・ジャパン株式会社、セキュリス・インベストメント・パートナーズ・エルエルビーおよびシトコ・ファンド・アドミニストレーション(ケイマン・アイランズ)リミテッドより入手したデータをもとに作成しています。また、リビング・アース戦略ファンド 年2回決算コースの基準価額への反映を考慮して、2営業日前のデータを使用しています。

※各項目の比率は、投資対象ファンドの純資産総額に対する債券評価額の割合です。  
※自然災害の種類別比率上位および地域別比率上位はK2アドバイザーズ・ジャパン株式会社およびセキュリス・インベストメント・パートナーズ・エルエルビーによる分類に基づき作成しています。

※自然災害の種類別比率上位、地域別比率上位、組入上位10銘柄の自然災害の種類、地域等の内容は、保有するCATボンドの発行体に保険金支払い義務が発生する対象となる自然災害の種類と地域について表したものです。なお、発行体に保険金支払い義務が生じるのは、一般的に、発生予測が難しいといわれる自然災害の中で、再保険契約に規定された事象が起こり、それに伴う保険金支払総額が一定水準を上回った場合に限ります。

## 年間収益率の推移(暦年ベース)



※ファンドにはベンチマークはありません。

※2016年は設定日(6月22日)から年末までの収益率を表示しています。

- ◆運用実績は過去の実績を示したものであり、将来の運用成果を示唆・保証するものではありません。
- ◆最新の運用状況は委託会社のホームページでご覧いただけます。

## 第3【ファンドの経理状況】

&lt;更新後&gt;

1. 当ファンドの財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号)(以下「財務諸表等規則」という。)並びに同規則第2条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」(平成12年総理府令第133号)(以下「投資信託財産計算規則」という。)に基づいて作成しており、金額は円単位で表示しております。
2. 当ファンドは、第1期計算期間(平成28年6月22日から平成28年12月15日まで)の財務諸表について、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、新日本有限責任監査法人による監査を受けております。

## 1 財務諸表

リビング・アース戦略ファンド（年2回決算コース）

## (1) 貸借対照表

(単位：円)

科 目	期 別	第1期 (平成28年12月15日現在)
		金額
資産の部		
流動資産		
コール・ローン		159,970,167
投資証券		2,579,097,962
親投資信託受益証券		99,960
流動資産合計		2,739,168,089
資産合計		2,739,168,089
負債の部		
流動負債		
未払受託者報酬		260,809
未払委託者報酬		10,432,255
未払利息		259
その他未払費用		120,886
流動負債合計		10,814,209
負債合計		10,814,209
純資産の部		
元本等		
元本		2,669,518,418
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金( )		58,835,462
(分配準備積立金)		40,016,530
元本等合計		2,728,353,880
純資産合計		2,728,353,880
負債純資産合計		2,739,168,089

## ( 2 ) 損益及び剰余金計算書

( 単位 : 円 )

科 目	期 別	第1期 ( 自 平成28年6月22日 至 平成28年12月15日 )
		金額
営業収益		
受取配当金		50,873,960
有価証券売買等損益		7,902,078
営業収益合計		42,971,882
営業費用		
支払利息		43,480
受託者報酬		260,809
委託者報酬		10,432,255
その他費用		120,886
営業費用合計		10,857,430
営業利益		32,114,452
経常利益		32,114,452
当期純利益		32,114,452
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額		-
期首剰余金又は期首欠損金 ( )		-
剰余金増加額又は欠損金減少額		26,721,010
当期追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額		26,721,010
剰余金減少額又は欠損金増加額		-
分配金		-
期末剰余金又は期末欠損金 ( )		58,835,462

## (3) 注記表

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

1 運用資産の評価基準 及び評価方法	(1)投資証券 基準価額で評価しております。  (2)親投資信託受益証券 移動平均法に基づき、時価で評価しております。 時価評価にあたっては、親投資信託受益証券の基準価額に基づいて評価しております。
2 費用・収益の計上基準	(1)受取配当金 原則として、収益分配金落ち日において、その金額が確定しているものについては当該金額を計上、未だ確定していない場合は入金日基準で計上しております。  (2)有価証券売買等損益 約定日基準で計上しております。

(貸借対照表に関する注記)

第1期 (平成28年12月15日現在)	
1 計算期間の末日における受益権の総数	2,669,518,418口
2 計算期間の末日における1単位当たりの純資産の額	1口当たり純資産額 1.0220円 (1万口当たり純資産額 10,220円)

(損益及び剰余金計算書に関する注記)

項 目	期 別 第1期 (自平成28年6月22日 至平成28年12月15日)
分配金の計算過程	計算期間末における費用控除後配当等収益(40,016,530円)、費用控除後有価証券売買等損益(0円)、収益調整金(18,818,932円)、及び分配準備積立金(0円)より、分配対象収益は58,835,462円(1万口当たり220円)となりましたが、当期の分配は見送りとさせていただきます。

## （金融商品に関する注記）

## 金融商品の状況に関する事項

	第1期 （自 平成28年6月22日 至 平成28年12月15日）
1 金融商品に対する取組方針	当ファンドは、投資信託及び投資法人に関する法律第2条第4項に定める証券投資信託であります。 有価証券等の金融商品に対して、信託約款及び委託会社で定めた投資ガイドラインや運用計画書等に従い、投資として運用することを目的としております。
2 金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク	金融商品の内容は、有価証券、コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務となります。有価証券の詳細については、（その他の注記）2 有価証券関係に記載の通りです。 有価証券に係るリスクとしては、価格変動リスク、金利変動リスク、為替変動リスク、カントリーリスク、信用リスク、流動性リスクなどがあります。
3 金融商品に係るリスク管理体制	委託会社においては、運用部門と独立した運用審査委員会を設け、パフォーマンスの分析・評価及び運用リスクの管理を行っております。 市場リスクの管理 価格変動リスク等の市場リスクに関しては、パフォーマンスの実績等の状況を常時分析・把握し、投資方針に従っているかを管理しております。 信用リスクの管理 信用リスクに関しては、発行体や取引先の財務状況等に関する情報収集・分析を常時継続し、格付等の信用度に応じた組入制限等の管理を行っております。 流動性リスクの管理 流動性リスクに関しては、市場流動性の状況を把握し、取引量や組入比率等の管理を行っております。
4 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれることがあります。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。

## 金融商品の時価等に関する事項

	第1期 （平成28年12月15日現在）
1 貸借対照表計上額、時価及びその差額	証券投資信託では、金融商品は原則として時価評価されるため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。
2 貸借対照表の科目ごとの時価の算定方法	投資証券、親投資信託受益証券については、（重要な会計方針に係る事項に関する注記）の 1 運用資産の評価基準及び評価方法に記載の通りです。 コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務については、時価が帳簿価額と近似しているため帳簿価額を時価としております。

## （関連当事者との取引に関する注記）

	第1期 （自 平成28年6月22日 至 平成28年12月15日）
該当事項はありません。	

(その他の注記)

## 1 元本の移動

項目	期別	第1期 (自平成28年6月22日 至平成28年12月15日)
期首元本額		- 円
期中追加設定元本額		2,669,518,418 円
期中一部解約元本額		- 円

## 2 有価証券関係

売買目的有価証券

第1期（自平成28年6月22日 至平成28年12月15日）

種類	当計算期間の損益に含まれた評価差額
投資証券	7,902,038 円
親投資信託受益証券	40 円
合計	7,902,078 円

## 3 デリバティブ取引関係

第1期（自平成28年6月22日 至平成28年12月15日）

該当事項はありません。

## (4) 附属明細表

有価証券明細表

a. 株式

該当事項はありません。

b. 株式以外の有価証券

(平成28年12月15日現在)

種類	銘柄	券面総額	評価額(円)	備考
投資証券	セキュリス ファンド-SPC セグリゲイテッド・ポートフォリオ・ セブン-キャットbond(クラスB JPY)	255,783.037	2,579,097,962	
合計		255,783.037	2,579,097,962	

(注) 投資証券における券面総額欄の数値は、証券数を表示しております。

(平成28年12月15日現在)

種類	銘柄	券面総額	評価額(円)	備考
親投資信託受益証券	マネーアカウントマザーファンド	99,632	99,960	
合計		99,632	99,960	

(注) 親投資信託受益証券における券面総額欄の数値は、口数を表示しております。

デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。



(参考)セキュリス ファンド-SPC セグリゲイテッド・ポートフォリオ・セブン・キャットボンド(クラスB JPY)の状況

以下に記載した情報は監査の対象外であります。

以下の記載は、K2アドバイザーズ・ジャパン株式会社、セキュリス・インベストメント・パートナーズ・エルエルピーおよびシトコ・ファンド・アドミニストレーション(ケイマン・アイランズ)リミテッドより入手したデータをもとに作成しております。当社は、その内容の正確性・完全性を保証するものではありません。

また、ファンドの基準価額への反映を考慮して、2営業日前のデータを使用しています。比率は、投資対象ファンドの純資産総額に対する割合です。

「セキュリス II ファンド-SPC セグリゲイテッド・ポートフォリオ・セブン・キャットボンド(クラスB JPY)」の組入資産の明細

組入銘柄

2016年12月30日現在

1	銘柄名	通貨	償還日	比率	自然災害の種類、地域等
1	EVERGL 144A FLOAT 2017-04-28	USD	2017/4/28	6.5%	米国 暴風 - フロリダ
2	SANDRE 144A FLOAT 2018-05-25	USD	2018/5/25	4.6%	米国 暴風 - フロリダを除く、米国 地震 - カリフォルニア、NY、ワシントン
3	KILREL 144a FLOAT 2019-12-06	USD	2019/12/6	4.3%	米国/カナダ 暴風/地震
4	ACORNR FLOAT 2018-07-17	USD	2018/7/17	3.9%	米国/カナダ 地震
5	GALIRE 144A FLOAT 2018-01-08	USD	2018/1/8	3.5%	米国 暴風/地震、カナダ 地震、欧州 暴風
6	EVERGL 144A FLOAT 2018-05-03	USD	2018/5/3	3.5%	米国 暴風 - フロリダ
7	RESID C11 144A FLOAT 2020-06-06	USD	2020/6/6	3.4%	米国 全ての自然災害
8	SANDRE 144a 144A FLOAT 2019-05-28	USD	2019/5/28	3.1%	米国 暴風 - フロリダを除く、米国 地震 - カリフォルニア、NY、ワシントン
9	QUEEST 144A FLOAT 2022-04-08	USD	2022/4/8	3.1%	米国/欧州 暴風
10	ALALTD 144A FLOAT 2017-06-07	USD	2017/6/7	3.1%	米国 暴風 - テキサス
11	GALIRE 1.0000% 2017-01-09	USD	2017/1/9	3.0%	米国 暴風/地震、カナダ 地震、欧州 暴風
12	RESID 144A FLOAT 2020-06-06	USD	2020/6/6	2.6%	米国 暴風/地震/山火事/火山噴火/隕石被害
13	ALALTD 144A FLOAT 2019-06-07	USD	2019/6/7	2.4%	米国 暴風 - テキサス
14	TRAMLN 144A FLOAT 2019-01-04	USD	2019/1/4	2.4%	米国 暴風/地震、欧州 暴風
15	ALALTD 144A FLOAT 2018-06-07	USD	2018/6/7	2.3%	米国 暴風 - テキサス
16	CITREL 144A FLOAT 2018-04-09	USD	2018/4/9	2.3%	米国 暴風 - フロリダ
17	MERNA 144A FLOAT 2018-04-09	USD	2018/4/9	2.3%	米国 地震 - ニューマドリッド
18	KILREL 144A FLOAT 2019-12-06	USD	2019/12/6	2.0%	米国/カナダ 暴風/地震
19	ATLAS 144A FLOAT 2019-01-07	USD	2019/1/7	1.9%	米国 暴風、米国/カナダ 地震
20	ATLAS 144A FLOAT 2020-01-08	USD	2020/1/8	1.6%	北米 暴風/地震
21	LOMARE 144a 144A FLOAT 2018-01-08	USD	2018/1/8	1.6%	米国 熱帯低気圧、米国 地震/暴風
22	RESID C13 144A FLOAT 2020-06-06	USD	2020/6/6	1.5%	米国 全ての自然災害
23	MANARE 144A FLOAT 2017-12-22	USD	2017/12/22	1.5%	米国 暴風 - フロリダ
24	URSARE 144A FLOAT 2017-12-07	USD	2017/12/7	1.5%	米国 地震 - カリフォルニア
25	VENTER 144A FLOAT 2017-01-09	USD	2017/1/9	1.5%	米国 地震、オーストラリア 暴風/地震
26	GLEIRE * 144A 0.0000% 2020-01-08	USD	2020/1/8	1.5%	米国 暴風/地震、カナダ 地震、欧州 暴風、オーストラリア 暴風/地震
27	GLEIRE ** 144A 0.0000% 2020-01-08	USD	2020/1/8	1.5%	米国 暴風/地震、カナダ 地震、欧州 暴風、オーストラリア 暴風/地震
28	GLEIRE *** 144A 0.0000% 2020-01-08	USD	2020/1/8	1.5%	米国 暴風/地震、カナダ 地震、欧州 暴風、オーストラリア 暴風/地震
29	QUEEST 144A FLOAT 2017-06-08	USD	2017/6/8	1.5%	米国/オーストラリア 暴風
30	RESID 4 FLOAT 2023-12-06	USD	2023/12/6	1.2%	米国 全ての自然災害
31	LOMARE 144A FLOAT 2018-01-08	USD	2018/1/8	1.2%	米国 熱帯低気圧、米国 地震/暴風
32	KILREL 144a 144A FLOAT 2018-04-30	USD	2018/4/30	1.2%	米国 暴風/地震
33	EASTLA 144A FLOAT 2018-03-14	USD	2018/3/14	1.1%	米国 暴風/地震
34	LAETRE 144A 0.0000% 2017-06-06	USD	2017/6/6	1.1%	米国 暴風/地震
35	GATORE 144A FLOAT 2017-01-09	USD	2017/1/9	1.1%	米国 暴風
36	RESID 144a FLOAT 2023-12-06	USD	2023/12/6	0.9%	米国 全ての自然災害
37	CALYPS 144A FLOAT 2018-01-08	EUR	2018/1/8	0.8%	欧州 暴風
38	CITREL 144a 144A FLOAT 2019-02-25	USD	2019/2/25	0.8%	米国 暴風 - フロリダ、ハワイ
39	RESID 144a 144A FLOAT 2017-06-06	USD	2017/6/6	0.8%	米国 暴風/地震/山火事 - カリフォルニア
40	PELICR 144A FLOAT 2017-05-15	USD	2017/5/15	0.8%	米国 暴風 - ルイジアナ
41	CITREL 144A FLOAT 2017-04-18	USD	2017/4/18	0.8%	米国 暴風 - フロリダ
42	URSARE FLOAT 2019-12-10	USD	2019/12/10	0.8%	米国 地震 - カリフォルニア
43	GLEIRE 144A 0.0000% 2020-01-08	USD	2020/1/8	0.8%	米国 暴風/地震、カナダ 地震、欧州 暴風、オーストラリア 暴風/地震
44	BONZRE A FLOAT 2022-12-30	USD	2022/12/30	0.8%	米国 暴風
45	BONZRE B FLOAT 2022-12-30	USD	2022/12/30	0.8%	米国 暴風
46	GALIRE 144a 144A FLOAT 2019-01-08	USD	2019/1/8	0.4%	米国 暴風/地震、カナダ 地震、欧州 暴風
47	CITREL 144a 144A FLOAT 2018-04-09	USD	2018/4/9	0.4%	米国 暴風 - フロリダ
48	KILREL 144A FLOAT 2018-04-30	USD	2018/4/30	0.4%	米国 暴風
49	QUEEST 144A FLOAT 2020-06-08	USD	2020/6/8	0.4%	米国/オーストラリア 暴風
50	RESID 144A 0.0000% 2020-12-06	USD	2020/12/6	0.3%	米国 全ての自然災害

※米国:アラバマ、アーカンソー、コネチカット、デラウェア、フロリダ、ハワイ、イリノイ、インディアナ、ケンタッキー、ルイジアナ、メイン、メリーランド、マサチューセッツ、ミシシッピ、ミズーリ、ニューハンプシャー、ニューヨーク、ノースカロライナ、オハイオ、オクラホマ、ペンシルバニア、サウスカロライナ、テネシー、テキサス、バーモント、バージニア、フェルトリコ、バージン島

（参考）マネーアカウントマザーファンドの状況

以下に記載した情報は監査の対象外であります。

当ファンドは「マネーアカウントマザーファンド」受益証券を投資対象としており、貸借対照表の資産の部に計上された「親投資信託受益証券」はすべて同マザーファンド受益証券です。

（１）貸借対照表

（単位：円）

科 目	対象年月日	（平成28年12月15日現在）	
		金額	
資産の部			
流動資産			
コール・ローン			1,493,109,403
流動資産合計			1,493,109,403
資産合計			1,493,109,403
負債の部			
流動負債			
未払利息			2,426
流動負債合計			2,426
負債合計			2,426
純資産の部			
元本等			
元本			1,488,250,223
剰余金			
期末剰余金又は期末欠損金（ ）			4,856,754
元本等合計			1,493,106,977
純資産合計			1,493,106,977
負債純資産合計			1,493,109,403

（２）注記表

（重要な会計方針に係る事項に関する注記）

該当事項はありません。

（貸借対照表に関する注記）

（平成28年12月15日現在）	
1 計算期間の末日における受益権の総数	1,488,250,223口
2 計算期間の末日における1単位当たりの純資産の額	
1口当たり純資産額	1.0033円
（1万口当たり純資産額）	10,033円）

(その他の注記)

## 1 元本の移動

項目	対象年月日	(平成28年12月15日現在)
期首元本額		1,076,231,902 円
期中追加設定元本額		4,493,339,039 円
期中一部解約元本額		4,081,320,718 円
期末元本額		1,488,250,223 円
元本の内訳*		
T & D 通貨トレード 新興国社債ファンド(毎月分配型)円ヘッジ・コース		72,728,542 円
T & D 通貨トレード 新興国社債ファンド(毎月分配型)米ドルブル・コース		12,370,307 円
T & D 通貨トレード 新興国社債ファンド(毎月分配型)米ドルベア・コース		810,623 円
T & D 通貨トレード 新興国社債ファンド(毎月分配型)ユーロブル・コース		513,290 円
T & D 通貨トレード 新興国社債ファンド(毎月分配型)ユーロベア・コース		4,305,187 円
T & D 通貨トレード 新興国社債ファンド(毎月分配型)リアルブル・コース		22,699,483 円
T & D 通貨トレード 新興国社債ファンド(毎月分配型)豪ドルブル・コース		88,421,400 円
T & D 通貨トレード 新興国社債ファンド(毎月分配型)豪ドルベア・コース		51,328 円
T & D 通貨トレード 新興国社債ファンド(毎月分配型)インドネシアリアルピアブル・コース		735,756 円
T & D リートファンド限定追加型1402		1,196,351 円
T & D ブル・ベア・ファンド(南アランド・ブル・コース)		49,811 円
T & D ブル・ベア・ファンド(南アランド・ベア・コース)		49,811 円
T & D ブル・ベア・ファンド(ブラジルリアル・ブル・コース)		49,811 円
T & D ブル・ベア・ファンド(ブラジルリアル・ベア・コース)		49,811 円
T & D ブル・ベア・ファンド(インド株・ブル・コース)		49,811 円
T & D ブル・ベア・ファンド(インド株・ベア・コース)		49,811 円
T & D ブル・ベア・ファンド(中国株・ブル・コース)		49,811 円
T & D ブル・ベア・ファンド(中国株・ベア・コース)		49,811 円
T & D ブル・ベア・ファンド(原油指数・ブル・コース)		49,811 円
T & D ブル・ベア・ファンド(原油指数・ベア・コース)		49,811 円
T & D ブル・ベア・ファンド(米国リート・ブル・コース)		49,811 円
T & D ブル・ベア・ファンド(米国リート・ベア・コース)		49,811 円
T & D ブル・ベア・ファンド(マネープール・コース)		896,593 円
リビング・アース戦略ファンド(年2回決算コース)		99,632 円
リビング・アース戦略ファンド(年4回決算コース)		99,632 円
T & D ダブルブル・ベア・シリーズ5(インド・ダブルブル5)		19,931 円
T & D ダブルブル・ベア・シリーズ5(インド・ダブルベア5)		19,931 円
T & D ダブルブル・ベア・シリーズ5(中国・ダブルブル5)		19,931 円
T & D ダブルブル・ベア・シリーズ5(中国・ダブルベア5)		19,931 円
T & D ダブルブル・ベア・シリーズ5(リアル・ダブルブル5)		19,931 円
T & D ダブルブル・ベア・シリーズ5(リアル・ダブルベア5)		19,931 円
T & D ダブルブル・ベア・シリーズ5(金・ダブルブル5)		19,931 円
T & D ダブルブル・ベア・シリーズ5(金・ダブルベア5)		19,931 円
T & D ダブルブル・ベア・シリーズ5(マネープールファンド5)		1,282,564,919 円
合計		1,488,250,223 円

\* 当該親投資信託受益証券を投資対象とする証券投資信託ごとの元本額

2 売買目的有価証券の貸借対照表計上額等  
（自 平成28年6月22日 至 平成28年12月15日）  
該当事項はありません。

3 デリバティブ取引関係  
（自 平成28年6月22日 至 平成28年12月15日）  
該当事項はありません。

### （3）附属明細表

有価証券明細表

a. 株式

該当事項はありません。

b. 株式以外の有価証券

該当事項はありません。

デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

## 2 ファンドの現況

（平成28年12月30日現在）

### 純資産額計算書

資産総額	2,868,459,306 円
負債総額	140,507,145 円
純資産総額（ - ）	2,727,952,161 円
発行済数量	2,669,518,418 口
1 単位当たり純資産額（ / ）	1.0219 円

### （参考）マネーアカウントマザーファンド

資産総額	1,263,070,361 円
負債総額	30,002,698 円
純資産総額（ - ）	1,233,067,663 円
発行済数量	1,229,098,443 口
1 単位当たり純資産額（ / ）	1.0032 円

**第三部【委託会社等の情報】****第1【委託会社等の概況】****1 委託会社等の概況**

&lt;訂正前&gt;

**(1) 資本金の額**

平成28年3月末日現在の資本金の額 11億円  
(略)

**(2) 会社の機構**

(略)

会社の機構は平成28年3月末日現在のものであり、今後変更となる場合があります。

&lt;訂正後&gt;

**(1) 資本金の額**

平成28年12月末日現在の資本金の額 11億円  
(略)

**(2) 会社の機構**

(略)

会社の機構は平成28年12月末日現在のものであり、今後変更となる場合があります。

**2 事業の内容及び営業の概況**

&lt;更新後&gt;

「投資信託及び投資法人に関する法律」に定める投資信託委託会社である委託会社は、証券投資信託の設定を行うとともに「金融商品取引法」に定める金融商品取引業者としてその運用（投資運用業）を行っています。また「金融商品取引法」に定める投資助言業務および第二種金融商品取引業を行っています。委託会社の運用する証券投資信託は平成28年12月末日現在、235本であり、その純資産総額の合計は1,020,969百万円です（ただし、親投資信託を除きます。）。

種類	本数	純資産総額
追加型株式投資信託	162本	439,002百万円
単位型株式投資信託	34本	115,739百万円
単位型公社債投資信託	39本	466,228百万円
合計	235本	1,020,969百万円

[次へ](#)

### 3 委託会社等の経理状況

#### <更新後>

1. 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。）ならびに同規則第2条の規定に基づき、「金融商品取引業等に関する内閣府令」（平成19年内閣府令第52号）により作成しております。  
また、当社の中間財務諸表は、「中間財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和52年大蔵省令第38号）ならびに同規則第38条及び57条の規定に基づき、「金融商品取引業等に関する内閣府令」（平成19年内閣府令第52号）により作成しております。
2. 当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第36期事業年度（平成27年4月1日から平成28年3月31日まで）の財務諸表について、新日本有限責任監査法人による監査を受けております。  
また、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第37期中間会計期間（平成28年4月1日から平成28年9月30日まで）の中間財務諸表について、新日本有限責任監査法人による中間監査を受けております。

## ( 1 ) 貸借対照表

区分	注記 番号	第35期 (平成27年3月31日現在)		第36期 (平成28年3月31日現在)	
		内訳 (千円)	金額 (千円)	内訳 (千円)	金額 (千円)
(資産の部)					
流動資産					
1. 預金			5,145,515		6,399,568
2. 有価証券			2,000,000		-
3. 前払費用			61,184		42,361
4. 未収入金			6,658		125,183
5. 未収委託者報酬			615,656		541,361
6. 未収運用受託報酬			391,340		313,690
7. 未収法人税等			-		2,251
8. 未収消費税等			-		40,776
9. 繰延税金資産			75,393		54,160
10. その他			5,637		328
流動資産計			8,301,386		7,519,682
固定資産					
1. 有形固定資産					
(1) 建物	1	37,148		129,493	
(2) 器具備品	1	21,907		92,128	
(3) その他	1	897		672	
2. 無形固定資産					
(1) 電話加入権		2,862		2,862	
(2) ソフトウェア		41,803		41,328	
(3) ソフトウェア仮勘定		4,935		1,366	
3. 投資その他の資産					
(1) 投資有価証券		107,398		63,050	
(2) 関係会社株式		5,386		5,386	
(3) 長期差入保証金		247,966		185,682	
(4) 繰延税金資産		154,137		132,823	
(5) その他		6,561		36,400	
固定資産計			631,004		691,195
資産合計			8,932,390		8,210,877

区分	注記 番号	第35期 (平成27年3月31日現在)		第36期 (平成28年3月31日現在)	
		内訳 (千円)	金額 (千円)	内訳 (千円)	金額 (千円)
<b>(負債の部)</b>					
流動負債					
1. 預り金			240,063		136,502
2. 未払金			274,749		291,814
(1) 未払収益分配金		789		1,205	
(2) 未払償還金		5,658		5,660	
(3) 未払手数料		222,619		210,892	
(4) その他未払金		45,681		74,055	
3. 未払費用			350,246		268,567
4. 未払法人税等			18,393		-
5. 未払消費税等			56,005		-
6. 賞与引当金			174,657		115,430
7. 役員賞与引当金			10,000		6,175
流動負債計			1,124,115		818,489
固定負債					
1. 退職給付引当金			402,572		410,278
2. 役員退職慰労引当金			26,197		26,676
固定負債計			428,770		436,955
負債合計			1,552,885		1,255,444
<b>(純資産の部)</b>					
株主資本					
1. 資本金			1,100,000		1,100,000
2. 資本剰余金			277,667		277,667
(1) 資本準備金		277,667		277,667	
3. 利益剰余金			6,002,917		5,580,304
(1) 利益準備金		175,000		175,000	
(2) その他利益剰余金					
別途積立金		3,137,790		3,137,790	
繰越利益剰余金		2,690,127		2,267,514	
株主資本計			7,380,585		6,957,972
評価・換算差額等					
1. その他有価証券評価差額金			1,080		2,539
評価・換算差額等計			1,080		2,539
純資産合計			7,379,505		6,955,433
負債純資産合計			8,932,390		8,210,877



## (2) 損益計算書

区分	注記 番号	第35期 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)		第36期 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	
		内訳 (千円)	金額 (千円)	内訳 (千円)	金額 (千円)
営業収益					
1. 委託者報酬			4,328,295		3,485,554
2. 運用受託報酬			1,839,106		1,528,989
営業収益計			6,167,402		5,014,544
営業費用					
1. 支払手数料			2,095,803		1,612,217
2. 広告宣伝費			3,774		3,125
3. 調査費			1,493,527		1,294,581
(1) 調査費		58,662		112,170	
(2) 委託調査費		1,058,869		800,411	
(3) 情報機器関連費		374,671		380,676	
(4) 図書費		1,323		1,323	
4. 委託計算費			160,922		164,312
5. 営業雑経費			157,361		144,458
(1) 通信費		8,310		8,940	
(2) 印刷費		97,950		92,160	
(3) 協会費		8,979		7,526	
(4) 諸会費		3,449		4,191	
(5) 紹介手数料		38,671		31,640	
営業費用計			3,911,389		3,218,696
一般管理費					
1. 給料			1,216,378		1,202,318
(1) 役員報酬		66,804		87,538	
(2) 給料・手当		1,101,744		1,066,119	
(3) 賞与		47,829		48,661	
2. 法定福利費			169,024		176,641
3. 退職金			3,571		4,021
4. 福利厚生費			3,044		3,654
5. 交際費			5,279		4,379
6. 旅費交通費			21,542		15,873
7. 事務委託費			83,048		96,492
8. 租税公課			17,845		20,908
9. 不動産賃借料			159,588		157,838
10. 退職給付費用			59,085		55,672
11. 役員退職慰労金			-		200
12. 役員退職慰労引当金繰入			5,366		6,278
13. 賞与引当金繰入			174,657		116,045
14. 役員賞与引当金繰入			10,000		6,175
15. 固定資産減価償却費			43,984		55,329
16. 諸経費			119,940		141,211
一般管理費計			2,092,356		2,063,042
営業利益または 営業損失( )			163,656		267,194

区分	注記 番号	第35期 (自 平成26年 4月 1日 至 平成27年 3月31日)		第36期 (自 平成27年 4月 1日 至 平成28年 3月31日)	
		内訳 (千円)	金額 (千円)	内訳 (千円)	金額 (千円)
営業外収益					
1. 受取配当金			1,633		1,284
2. 有価証券利息			1,396		885
3. 受取利息			772		631
4. 時効成立分配金・償還金			291		-
5. その他			7		9
営業外収益計			4,101		2,810
営業外費用					
1. 為替差損			5,549		1,381
2. 雑損失			1,694		6,372
営業外費用計			7,244		7,754
経常利益または 経常損失( )			160,513		272,137
特別利益					
1. 固定資産売却益	1		122		-
2. 投資有価証券売却益			14,779		52,535
特別利益計			14,901		52,535
特別損失					
1. 固定資産除却損	2		-		993
2. 投資有価証券売却損			18,299		2,642
3. 本社移転費用			14,743		257,044
特別損失計			33,043		260,680
税引前当期純利益または 税引前当期純損失( )			142,371		480,283
法人税、住民税及び事業税 法人税等調整額			61,231		100,821
当期純利益または 当期純損失( )			14,684		43,150
			66,454		422,613

## ( 3 ) 株主資本等変動計算書

第35期（自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日）

（単位：千円）

	株 主 資 本							株主資本 合計
	資本金	資 本 剰 余 金		利 益 剰 余 金	利 益 剰 余 金		株主資本 合計	
		資本準備金	資本剰余金 合計		利益準備金	その他利益剰余金		
					別途積立金	繰越利益剰 余金	利益剰余金 合計	
当期首残高	1,100,000	277,667	277,667	175,000	3,137,790	2,623,672	5,936,462	7,314,130
当期変動額								
剰余金の配当								
当期純利益						66,454	66,454	66,454
株主資本以外の 項目の当期変動 額(純額)								
当期変動額合計	-	-	-	-	-	66,454	66,454	66,454
当期末残高	1,100,000	277,667	277,667	175,000	3,137,790	2,690,127	6,002,917	7,380,585

	評価・換算差額等		純資産 合 計
	その他有価 証券評価差 額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	2,225	2,225	7,311,904
当期変動額			
剰余金の配当			-
当期純利益			66,454
株主資本以外の項 目の当期変動額 (純額)	1,145	1,145	1,145
当期変動額合計	1,145	1,145	67,600
当期末残高	1,080	1,080	7,379,505

第36期（自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日）

（単位：千円）

	株 主 資 本							株主資本 合計
	資本金	資 本 剰 余 金		利 益 剰 余 金				
		資本準備金	資本剰余金 合計	利益準備金	その他利益剰余金		利益剰余金 合計	
				別途積立金	繰越利益剰 余金			
当期首残高	1,100,000	277,667	277,667	175,000	3,137,790	2,690,127	6,002,917	7,380,585
当期変動額								
剰余金の配当								
当期純利益または 当期純損失（ ）						422,613	422,613	422,613
株主資本以外の項 目の当期変動額 （純額）								
当期変動額合計	-	-	-	-	-	422,613	422,613	422,613
当期末残高	1,100,000	277,667	277,667	175,000	3,137,790	2,267,514	5,580,304	6,957,972

	評価・換算差額等		純資産 合計
	その他有価 証券評価差 額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	1,080	1,080	7,379,505
当期変動額			
剰余金の配当			-
当期純利益			422,613
株主資本以外の項 目の当期変動額 （純額）	1,458	1,458	1,458
当期変動額合計	1,458	1,458	424,072
当期末残高	2,539	2,539	6,955,433

## 重要な会計方針

## 1．有価証券の評価基準及び評価方法

## (1) 子会社株式

移動平均法による原価法を採用しております。

## (2) その他有価証券

## 時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法を採用しております。（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております。）

## 時価のないもの

移動平均法による原価法を採用しております。

## 2．固定資産の減価償却の方法

## (1) 有形固定資産

定率法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物	3～50年
器具備品	3～15年
その他	8年

## (2) 無形固定資産

定額法を採用しております。

自社利用のソフトウェアについては、社内における見込利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用しております。

## 3．引当金の計上基準

## (1) 賞与引当金

従業員賞与の支出に備えるため、支給見込額に基づき計上しております。

## (2) 役員賞与引当金

役員賞与の支出に備えるため、当事業年度における支給見込額に基づき計上しております。

## (3) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、簡便法（期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法）により、期末要支給額を計上しております。

## (4) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。

## 4．その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

## (1) 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっております。

## (2) 連結納税制度の適用

連結納税制度を適用しております。

## 注記事項

## (貸借対照表関係)

第35期 (平成27年3月31日現在)	第36期 (平成28年3月31日現在)
1 有形固定資産の減価償却累計額	1 有形固定資産の減価償却累計額
建物 97,303千円	建物 6,710千円
器具備品 159,980千円	器具備品 83,324千円
	その他 224千円

## (損益計算書関係)

第35期 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	第36期 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

<p>1 固定資産売却益の内訳は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">器具備品</td> <td style="text-align: right;">122千円</td> </tr> </table>	器具備品	122千円	<p>2 固定資産除却損の内訳は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">器具備品</td> <td style="text-align: right;">315千円</td> </tr> <tr> <td>ソフトウェア</td> <td style="text-align: right;">677千円</td> </tr> </table>	器具備品	315千円	ソフトウェア	677千円
器具備品	122千円						
器具備品	315千円						
ソフトウェア	677千円						

（株主資本等変動計算書関係）

第35期（自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日）

1. 発行済株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首 株式数（千株）	当事業年度増加 株式数（千株）	当事業年度減少 株式数（千株）	当事業年度末 株式数（千株）
普通株式	1,082	-	-	1,082
合計	1,082	-	-	1,082

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

該当事項はありません。

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

該当事項はありません。

第36期（自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日）

1. 発行済株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首 株式数（千株）	当事業年度増加 株式数（千株）	当事業年度減少 株式数（千株）	当事業年度末 株式数（千株）
普通株式	1,082	-	-	1,082
合計	1,082	-	-	1,082

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

該当事項はありません。

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

該当事項はありません。

## (金融商品関係)

## 1. 金融商品の状況に関する事項

## (1) 金融商品に対する取組方針

当社では、資金運用については原則として預金等の資産を中心に投資する方針であり、有価証券の取得を行う場合には、投機的な取引は行いません。

また、資金調達については、主に金融機関からの借入による方針です。

## (2) 金融商品の内容及びそのリスク

未収委託者報酬及び未収運用受託報酬は顧客の信用リスクに晒されておりますが、主に信託銀行により分別管理が行われている信託財産から支弁されており、当該リスクの影響は軽微であります。

有価証券は、短期の譲渡性預金であり、市場価格等の変動リスクは軽微であります。

投資有価証券及び関係会社株式は、主に非上場株式、子会社株式及び投資信託であります。非上場株式及び子会社株式は業務上の関係維持を目的として保有しており、定期的に発行体の財務状況等の把握を行っております。投資信託は当社が設定する投資信託を商品性の維持等を目的に取得しているものであり、市場価格等の変動リスクは軽微であります。

長期差入保証金については、主に本社ビルの賃貸借契約に基づき差入れたものであり、信用リスクの影響は軽微であります。

未払金、未払費用は、ほとんどが1年以内の支払期日です。

## (3) 金融商品に係るリスク管理体制

当社は、「リスク管理基本方針」にて各種リスクの基本的考え方を定めており、「財務リスク管理規程」によって、財務リスク（資金繰りリスク、信用リスク）の管理方法を定めています。財務リスクの状況は、月次で開催されるリスク管理委員会にてモニタリングが行われます。

## 2. 金融商品の時価等に関する事項

貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません（（注2）参照のこと。）。

第35期（自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日）

（単位：千円）

	貸借対照表 計上額(*)	時価(*)	差額
(1) 預金	5,145,515	5,145,515	-
(2) 有価証券			
其他有価証券	2,000,000	2,000,000	-
(3) 未収入金	6,658	6,658	-
(4) 未収委託者報酬	615,656	615,656	-
(5) 未収運用受託報酬	391,340	391,340	-
(6) 投資有価証券			
其他有価証券	45,198	45,198	-
資産計	8,204,369	8,204,369	-
(1) 未払金			
未払収益分配金	(789)	(789)	-
未払償還金	(5,658)	(5,658)	-
未払手数料	(222,619)	(222,619)	-
其他未払金	(45,681)	(45,681)	-
(2) 未払費用	(350,246)	(350,246)	-
負債計	(624,995)	(624,995)	-

(\*) 負債に計上されているものについては、( )で示しております。

(注1) 金融商品の時価の算定方法及び有価証券に関する事項  
資産

## (1) 預金

短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

## (2) 未収入金、未収委託者報酬及び未収運用受託報酬

短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

## (3) 有価証券(譲渡性預金)及び投資有価証券(投資信託)

譲渡性預金は短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。また、投資信託は公表されている基準価額によっております。

## 負債

## (1) 未払金及び未払費用

短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

## (注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：千円)

区分	貸借対照表計上額
非上場株式	62,200
子会社株式	5,386
長期差入保証金	247,966
合計	315,552

これらについては、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積もることができず、時価を把握することが極めて困難と認められることから時価開示の対象とはしていません。

## (注3) 金銭債権及び満期がある有価証券の決算日後の償還予定額

(単位：千円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超
預金	5,145,515	-	-
有価証券			
その他有価証券のうち 満期があるもの(その他)	2,000,000	-	-
未収入金	6,658	-	-
未収委託者報酬	615,656	-	-
未収運用受託報酬	391,340	-	-
投資有価証券			
その他有価証券のうち 満期があるもの(その他)	-	25,010	20,188
合計	8,159,171	25,010	20,188



第36期（自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日）

（単位：千円）

	貸借対照表 計上額(*)	時価(*)	差額
(1) 預金	6,399,568	6,399,568	-
(2) 未収入金	125,183	125,183	-
(3) 未収委託者報酬	541,361	541,361	-
(4) 未収運用受託報酬	313,690	313,690	-
(5) 投資有価証券 その他有価証券	32,850	32,850	-
資産計	7,412,654	7,412,654	-
(1) 未払金			
未払収益分配金	(1,205)	(1,205)	-
未払償還金	(5,660)	(5,660)	-
未払手数料	(210,892)	(210,892)	-
その他未払金	(74,055)	(74,055)	-
(2) 未払費用	(268,567)	(268,567)	-
負債計	(560,381)	(560,381)	-

(\*) 負債に計上されているものについては、( )で示しております。

(注1) 金融商品の時価の算定方法及び有価証券に関する事項

## 資産

## (1) 預金

短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

## (2) 未収入金、未収委託者報酬及び未収運用受託報酬

短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

## (3) 投資有価証券(投資信託)

投資信託は公表されている基準価額によっております。

## 負債

## (1) 未払金及び未払費用

短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：千円)

区分	貸借対照表計上額
非上場株式	30,200
子会社株式	5,386
長期差入保証金	185,682
合計	221,269

これらについては、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積もることができず、時価を把握することが極めて困難と認められることから時価開示の対象とはしていません。

(注3) 金銭債権及び満期がある有価証券の決算日後の償還予定額

(単位：千円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超
預金	6,399,568	-	-
未収入金	125,183	-	-
未収委託者報酬	541,361	-	-
未収運用受託報酬	313,690	-	-
投資有価証券 その他有価証券のうち 満期があるもの(その他)	23,921	1,400	7,528
合計	7,403,725	1,400	7,528

(有価証券関係)

第35期(自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)

その他有価証券の当事業年度中の売却額は206,953千円であり、売却益の合計額は14,779千円、売却損の合計額は18,299千円であります。また、その他有価証券において、種類ごとの取得原価、貸借対照表計上額及びこれらの差額については、次のとおりであります。

(単位：千円)

	種類(*)	取得原価	貸借対照表計上額	差額
貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) その他の証券	15,326	18,181	2,854
	小計	15,326	18,181	2,854
貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) その他の証券	2,031,468	2,027,016	4,451
	小計	2,031,468	2,027,016	4,451
合計		2,046,795	2,045,198	1,596

(\*) 当事業年度中において、保有目的が変更となった有価証券はありません。

第36期(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

その他有価証券の当事業年度中の売却額は107,042千円であり、売却益の合計額は52,535千円、売却損の合計額は2,642千円であります。また、その他有価証券において、種類ごとの取得原価、貸借対照表計上額及びこれらの差額については、次のとおりであります。

(単位：千円)

	種類(*)	取得原価	貸借対照表計上額	差額
貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) その他の証券	14,353	16,214	1,861
	小計	14,353	16,214	1,861
貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) その他の証券	22,156	16,635	5,520
	小計	22,156	16,635	5,520
合計		36,509	32,850	3,659

(\*) 当事業年度中において、保有目的が変更となった有価証券はありません。

## （退職給付関係）

第35期（自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日）

## 1．採用している退職給付制度の概要

当社は、確定給付型の制度として退職一時金制度を採用しております。なお、従業員の一部について平成16年7月より確定拠出型の制度として確定拠出年金制度を開始しました。

当社が有する退職一時金制度は、簡便法により退職給付引当金及び退職給付費用を計算しております。

## 2．確定給付制度

## (1)簡便法を適用した制度の、退職給付引当金の期首残高と期末残高の調整表

退職給付引当金の期首残高	374,966千円
退職給付費用	50,270千円
退職給付の支払額	22,664千円
退職給付引当金の期末残高	402,572千円

## (2)退職給付債務及び年金資産の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金及び前払年金費用の調整表

退職一時金制度の退職給付債務	402,572千円
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	402,572千円

退職給付引当金	402,572千円
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	402,572千円

## (3)退職給付費用

簡便法で計算した退職給付費用	50,270千円
----------------	----------

## 3．確定拠出制度

確定拠出制度への要拠出額	8,815千円
--------------	---------

第36期（自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日）

## 1．採用している退職給付制度の概要

当社は、確定給付型の制度として退職一時金制度を採用しております。なお、従業員の一部について平成16年7月より確定拠出型の制度として確定拠出年金制度を開始しました。

当社が有する退職一時金制度は、簡便法により退職給付引当金及び退職給付費用を計算しております。

## 2．確定給付制度

## (1)簡便法を適用した制度の、退職給付引当金の期首残高と期末残高の調整表

退職給付引当金の期首残高	402,572千円
退職給付費用	47,397千円
退職給付の支払額	39,691千円
退職給付引当金の期末残高	410,278千円

## (2)退職給付債務及び年金資産の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金及び前払年金費用の調整表

退職一時金制度の退職給付債務	410,278千円
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	410,278千円

退職給付引当金	410,278千円
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	410,278千円

## (3)退職給付費用

簡便法で計算した退職給付費用	47,397千円
----------------	----------

## 3．確定拠出制度

確定拠出制度への要拠出額	8,275千円
--------------	---------

(税効果会計関係)

## 1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	第35期（平成27年3月31日現在）	第36期（平成28年3月31日現在）
	（単位：千円）	（単位：千円）
（繰延税金資産）		
賞与引当金	57,811	35,621
未払事業税	2,927	-
未払社会保険料	9,035	5,848
退職給付引当金	138,855	133,942
子会社株式評価損	1,317	1,246
連結納税加入に伴う有価証券 時価評価益	21,200	15,056
減価償却超過額否認	3,538	2,962
長期差入保証金	11,227	29,925
本社移転費用	-	24,338
繰越欠損金	-	24,938
その他有価証券評価差額金	516	1,120
その他	5,619	5,468
小計	252,048	280,470
評価性引当額	22,517	93,346
繰延税金資産計	229,530	187,123
（繰延税金負債）		
未収事業税	-	139
繰延税金負債計	-	139
繰延税金資産の純額	229,530	186,983

## 2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税率等の負担率との差異の原因となった主要な項目別の内訳

第35期（平成27年3月31日現在）	第36期（平成28年3月31日現在）	
法定実効税率 (調整)	35.6 %	税引前当期純損失を計上しているため 注記を省略しております。
交際費等永久に損金に算入されない項目	3.3 %	
受取配当金等永久に益金に算入されない 項目	- %	
住民税均等割	1.6 %	
評価性引当額	4.2 %	
税率変更による期末繰延税金資産の減額 修正	14.9 %	
その他	2.0 %	
<b>税効果会計適用後の法人税率の負担率</b>	<b>53.3 %</b>	

## 3. 法人税率等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」（平成28年法律第15号）、「地方税法等の一部を改正する法律」（平成28年法律第13号）が平成28年3月29日に国会で成立し、平成28年4月1日以降に開始する事業年度から法人税率等の引下げ等が行われることとなりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は従来の33.0%から平成28年4月1日及び平成29年4月1日に開始する事業年度に解消が見込まれる一時差異等については30.8%に、平成30年4月1日に開始する事業年度以降に解消が見込まれるものについては30.6%となります。

なお、これによる当事業年度の損益に与える影響は軽微であります。

## (資産除去債務関係)

## 1. 当該資産除去債務の概要

本社の賃貸借契約に伴う原状回復義務であります。

## 2. 当該資産除去債務の金額の算定方法

当社は、資産除去債務の負債計上に代えて、賃貸借契約に関連する長期差入保証金の回収が最終的に見込めないと認められる金額を合理的に見積もり、そのうち当期の負担に属する金額を費用計上する方法によっております。

## 3. 当該資産除去債務の総額の増減

	第35期 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	第36期 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)
期首残高	52,188千円	163,632千円
賃貸借契約締結にともなう増加額	-	52,929
見積りの変更による増加額（減少額）	111,444	58,356
資産除去債務の履行による減少額	-	-
期末残高	163,632	158,204

## （セグメント情報等）

## セグメント情報

当社は投資運用業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

## 関連情報

第35期（自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日）

## 1. 製品及びサービスごとの情報

当社の製品及びサービス区分の決定方法は、損益計算書の営業収益各項目の区分と同一であることから、製品及びサービスごとの営業収益の記載を省略しております。

## 2. 地域ごとの情報

## (1) 営業収益

本邦の外部顧客への営業収益に区分した金額が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、地域ごとの営業収益の記載を省略しております。

## (2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、地域ごとの有形固定資産の記載を省略しております。

## 3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への営業収益のうち、損益計算書の営業収益の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

第36期（自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日）

## 1. 製品及びサービスごとの情報

当社の製品及びサービス区分の決定方法は、損益計算書の営業収益各項目の区分と同一であることから、製品及びサービスごとの営業収益の記載を省略しております。

## 2. 地域ごとの情報

## (1) 営業収益

本邦の外部顧客への営業収益に区分した金額が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、地域ごとの営業収益の記載を省略しております。

## (2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、地域ごとの有形固定資産の記載を省略しております。

## 3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への営業収益のうち、損益計算書の営業収益の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

## ( 関連当事者との取引 )

## 1. 関連当事者との取引

## (1) 財務諸表提出会社の親会社及び主要株主（会社等の場合に限る。）等

第35期（自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金(百万円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(千円)	科目	期末残高(千円)
親会社	株T&Dホールディングス	東京都港区	207,111	持株会社	(被所有)直接 100	経営管理役員の兼任	賃借契約に係る敷金の差入(*1)	-	長期差入保証金	116,711
							連結納税に伴う受取予定額(*2)	6,658	未収入金	6,658

(注) 1. 上記の金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

## 2. 取引条件及び取引条件の決定方針等

(\*1) 長期差入保証金については、床面積を基準に決定しております。

(\*2) 連結法人税額のうち当社の個別帰属額であり、連結納税親会社から受け取る金額であります。

第36期（自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金(百万円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(千円)	科目	期末残高(千円)
親会社	株T&Dホールディングス	東京都中央区	207,111	持株会社	(被所有)直接 100	経営管理役員の兼任	連結納税に伴う受取予定額(*1)	113,644	未収入金	113,644

(注) 1. 取引条件及び取引条件の決定方針等

(\*1) 連結法人税額のうち当社の個別帰属額であり、連結納税親会社から受け取る金額であります。

## (2) 財務諸表提出会社と同一の親会社をもつ会社等

第35期（自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日）

該当事項はありません。

第36期（自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金(百万円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(千円)	科目	期末残高(千円)
同一の親会社を持つ会社	大同生命保険(株)	大阪府大阪市	110,000	生命保険業	-	投資顧問契約の締結役員の兼任	投資顧問契約(*1)	311,115	未収運用受託報酬	90,373

(注) 1. 上記の金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

## 2. 取引条件及び取引条件の決定方針等

(\*1) 投資顧問料については、運用の種類・受託資産の規模等を勘案し総合的に決定しております。

## 2. 親会社又は重要な関連会社に関する注記

## (1) 親会社情報

株式会社T &amp; Dホールディングス（東京証券取引所に上場）

## ( 1株当たり情報 )

第35期 (自 平成26年 4月 1日 至 平成27年 3月31日)		第36期 (自 平成27年 4月 1日 至 平成28年 3月31日)	
1株当たり純資産額	6,817.09円	1株当たり純資産額	6,425.34円
1株当たり当期純利益金額	61.39円	1株当たり当期純損失金額	390.40円
<p>なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。</p>		<p>なお、潜在株式調整後1株当たり当期純損失金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。</p>	
1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎		1株当たり当期純損失金額の算定上の基礎	
当期純利益(千円)	66,454	当期純損失(千円)	422,613
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	普通株主に帰属しない金額(千円)	-
普通株式に係る当期純利益(千円)	66,454	普通株式に係る当期純損失(千円)	422,613
期中平均株式数(千株)	1,082	期中平均株式数(千株)	1,082

(重要な後発事象)

該当事項はありません。



## 中間財務諸表

## (1) 中間貸借対照表

		第37期中間会計期間末 (平成28年9月30日)	
区分	注記 番号	内訳 (千円)	金額 (千円)
(資産の部)			
流動資産			
1. 預金			6,341,156
2. 前払費用			58,590
3. 未収入金			84,800
4. 未収委託者報酬			652,916
5. 未収運用受託報酬			313,405
6. 繰延税金資産			22,331
7. その他			52
流動資産計			7,473,252
固定資産			
1. 有形固定資産			
(1) 建物	1	122,094	198,808
(2) 器具備品	1	76,124	
(3) その他	1	588	
2. 無形固定資産			
(1) 電話加入権		2,862	51,693
(2) ソフトウェア		42,938	
(3) ソフトウェア仮勘定		5,892	
3. 投資その他の資産			
(1) 投資有価証券		46,132	313,479
(2) 関係会社株式		5,386	
(3) 長期差入保証金		125,079	
(4) 繰延税金資産		105,785	
(5) その他		31,095	
固定資産計			563,980
資産合計			8,037,233

		第37期中間会計期間末 (平成28年9月30日)	
区分	注記 番号	内訳 (千円)	金額 (千円)
(負債の部)			
流動負債			
1. 預り金			5,753
2. 未払金			309,817
(1) 未払収益分配金		1,205	
(2) 未払償還金		5,660	
(3) 未払手数料		258,107	
(4) その他未払金		44,843	
3. 未払費用			330,334
4. 未払法人税等			6,433
5. 未払消費税等	2		7,300
6. 前受収益			4,125
7. 賞与引当金			61,358
8. 役員賞与引当金			7,677
流動負債計			732,800
固定負債			
1. 退職給付引当金			412,464
2. 役員退職慰労引当金			17,130
固定負債計			429,594
負債合計			1,162,395
(純資産の部)			
株主資本			
1. 資本金			1,100,000
2. 資本剰余金			277,667
(1) 資本準備金		277,667	
3. 利益剰余金			5,497,001
(1) 利益準備金		175,000	
(2) その他利益剰余金			
別途積立金		3,137,790	
繰越利益剰余金		2,184,211	
株主資本計			6,874,669
評価・換算差額等			
1. その他有価証券評価差額金			168
評価・換算差額等計			168
純資産合計			6,874,838
負債純資産合計			8,037,233

## ( 2 ) 中間損益計算書

		第37期中間会計期間 (自 平成28年 4月 1日 至 平成28年 9月30日)	
区分	注記 番号	内訳 (千円)	金額 (千円)
営業収益			
1. 委託者報酬			1,744,847
2. 運用受託報酬			584,949
営業収益計			2,329,796
営業費用			
1. 支払手数料			783,946
2. 広告宣伝費			1,309
3. 調査費			586,894
(1) 調査費		52,689	
(2) 委託調査費		344,103	
(3) 情報機器関連費		189,686	
(4) 図書費		415	
4. 委託計算費			85,102
5. 営業雑経費			52,113
(1) 通信費		4,053	
(2) 印刷費		43,086	
(3) 協会費		2,938	
(4) 諸会費		2,036	
営業費用計			1,509,366
一般管理費			
1. 給料			551,385
(1) 役員報酬		33,668	
(2) 給料・手当		506,517	
(3) 賞与		11,199	
2. 法定福利費			85,248
3. 退職金			3,443
4. 福利厚生費			2,162
5. 交際費			558
6. 旅費交通費			5,349
7. 事務委託費			40,836
8. 租税公課			8,550
9. 不動産賃借料			62,551
10. 退職給付費用			26,362
11. 役員退職慰労引当金繰入			2,225
12. 賞与引当金繰入			61,358
13. 役員賞与引当金繰入			7,677
14. 固定資産減価償却費	1		31,396
15. 諸経費			36,668
一般管理費計			925,774
営業損失 ( )			105,343

		第37期中間会計期間 (自 平成28年 4月 1日 至 平成28年 9月30日)	
区分	注記 番号	内訳 (千円)	金額 (千円)
営業外収益			
1. 受取配当金			1,033
2. 受取利息			33
3. 為替差益			383
4. 雑益			639
営業外収益計			2,088
営業外費用			
1. 雑損失			476
営業外費用計			476
經常損失( )			103,731
特別利益			
1. 投資有価証券売却益			344
特別利益計			344
特別損失			
1. 投資有価証券売却損			5,634
特別損失計			5,634
税引前中間純損失( )			109,021
法人税、住民税及び事業税			83,391
法人税等調整額			57,672
中間純損失( )			83,302

## ( 3 ) 中間株主資本等変動計算書

第37期中間会計期間（自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日）

（単位：千円）

	株 主 資 本							株主資本 合計
	資本金	資 本 剰 余 金		利 益 剰 余 金	利 益 剰 余 金		利益剰余金合計	
		資本 準備金	資本剰余金 合計		その他利益剰余金	繰越利益 剰余金		
			利益 準備金	別途 積立金	繰越利益 剰余金			
当期首残高	1,100,000	277,667	277,667	175,000	3,137,790	2,267,514	5,580,304	6,957,972
当中間会計期間 変動額								
剰余金の配当								
中間純損失（ ）						83,302	83,302	83,302
株主資本以外の項 目の当中間会計期 間変動額（純額）								
当中間会計期間 変動額合計	-	-	-	-	-	83,302	83,302	83,302
当中間会計期間末 残高	1,100,000	277,667	277,667	175,000	3,137,790	2,184,211	5,497,001	6,874,669

	評価・換算差額等		純資産 合 計
	その他有価 証券評価 差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	2,539	2,539	6,955,433
当中間会計期間 変動額			
剰余金の配当			-
中間純損失（ ）			83,302
株主資本以外の項 目の当中間会計期 間変動額（純額）	2,708	2,708	2,708
当中間会計期間 変動額合計	2,708	2,708	80,594
当中間会計期間末 残高	168	168	6,874,838

## 重要な会計方針

	第37期中間会計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)						
1. 資産の評価基準及び評価方法	(1) 有価証券 子会社株式 移動平均法による原価法を採用しております。 その他有価証券 時価のあるもの 中間会計期間末日の市場価格等に基づく時価法を採用しております。(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております。) 時価のないもの 移動平均法による原価法を採用しております。						
2. 固定資産の減価償却の方法	(1) 有形固定資産 定率法を採用しております。ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。 なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。 <table style="margin-left: 40px;"> <tr> <td>建物</td> <td>3～50年</td> </tr> <tr> <td>器具備品</td> <td>3～15年</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>8年</td> </tr> </table> (2) 無形固定資産 自社利用のソフトウェアについては、社内における見込利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用しております。	建物	3～50年	器具備品	3～15年	その他	8年
建物	3～50年						
器具備品	3～15年						
その他	8年						
3. 引当金の計上基準	(1) 賞与引当金 従業員の賞与の支給に備えるため、将来の支給見込額のうち当中間会計期間にかかる額を計上しております。 (2) 役員賞与引当金 役員賞与の支出に備えるため、当事業年度における支給見込額の当中間会計期間負担額を計上しております。 (3) 退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、簡便法（期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法）により、当中間会計期間末における必要額を計上しております。 (4) 役員退職慰労引当金 役員の退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく当中間会計期間末要支給額を計上しております。						
4. その他中間財務諸表作成のための基本となる重要な事項	(1) 消費税等の会計処理 税抜方式によっております。 (2) 連結納税制度の適用 連結納税制度を適用しております。						

## 会計方針の変更

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第32号 平成28年6月17日)を当中間会計期間に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

この変更による中間財務諸表に与える影響はありません。

## (追加情報)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を当中間会計期間から適用しております。

## 注記事項

## (中間貸借対照表関係)

第37期中間会計期間末 (平成28年9月30日現在)	
1 有形固定資産の減価償却累計額は次の通りであります。	
建物	14,109千円
器具備品	99,009千円
その他	308千円
2 消費税等の取扱い	
仮払消費税等及び仮受消費税等は、相殺のうえ流動負債の「未払消費税等」として表示しております。	

## (中間損益計算書関係)

第37期中間会計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)	
1 固定資産の減価償却実施額は次の通りであります。	
有形固定資産	23,486千円
無形固定資産	7,909千円

## (中間株主資本等変動計算書関係)

第37期中間会計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)

## 1. 発行済株式に関する事項

株式の種類	当期首株式数 (千株)	当中間会計期間増加 株式数(千株)	当中間会計期間減少 株式数(千株)	当中間会計期間末 株式数(千株)
普通株式	1,082	-	-	1,082
合計	1,082	-	-	1,082

## 2. 配当に関する事項

## (1) 配当金支払額

該当事項はありません。

## (2) 基準日が当中間会計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当中間会計期間後となるもの

該当事項はありません。

## （金融商品関係）

## 金融商品の時価等に関する事項

平成28年9月30日における中間貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません（（注2）参照のこと。）。

（単位：千円）

	中間貸借対照表 計上額(*)	時価(*)	差額
(1) 預金	6,341,156	6,341,156	-
(2) 未収入金	84,800	84,800	-
(3) 未収委託者報酬	652,916	652,916	-
(4) 未収運用受託報酬	313,405	313,405	-
(5) 投資有価証券 その他有価証券	15,932	15,932	-
資産計	7,408,210	7,408,210	-
(1) 未払金 未払収益分配金	(1,205)	(1,205)	-
未払償還金	(5,660)	(5,660)	-
未払手数料	(258,107)	(258,107)	-
その他未払金	(44,843)	(44,843)	-
(2) 未払費用	(330,334)	(330,334)	-
負債計	(640,152)	(640,152)	-

(\*) 負債に計上されているものについては、（ ）で示しております。

## （注1）金融商品の時価の算定方法及び有価証券に関する事項

## 資 産

## (1) 預金

短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

## (2) 未収委託者報酬及び未収運用受託報酬

短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

## (3) 投資有価証券（投資信託）

公表されている基準価額によっております。

## 負 債

## (1) 未払金及び未払費用

短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。



（注2）時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

（単位：千円）

区分	中間貸借対照表計上額
非上場株式	30,200
子会社株式	5,386
長期差入保証金	125,079
合計	160,665

これらについては、市場価格がなく、かつ将来キャッシュフローを見積もることができず、時価を把握することが極めて困難と認められることから時価開示の対象とはしておりません。

（有価証券関係）

第37期中間会計期間（自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日）

その他有価証券において、種類ごとの取得原価、中間貸借対照表計上額及びこれらの差額については、次のとおりであります。

（単位：千円）

	種類	取得原価	中間貸借対照表計上額	差額
中間貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) その他の証券	9,586	10,033	446
	小計	9,586	10,033	446
中間貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) その他の証券	6,102	5,899	202
	小計	6,102	5,899	202
合計		15,689	15,932	243

（資産除去債務関係）

記載すべき重要な事項はありません。

（セグメント情報等）

第37期中間会計期間（自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日）

セグメント情報

当社は投資運用業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

関連情報

1. 製品及びサービスごとの情報

当社の製品及びサービス区分の決定方法は、中間損益計算書の営業収益各項目の区分と同一であることから、製品及びサービスごとの営業収益の記載を省略しております。

## 2. 地域ごとの情報

## (1) 営業収益

本邦の外部顧客への営業収益に区分した金額が中間損益計算書の営業収益の90%を超えるため、地域ごとの営業収益の記載を省略しております。

## (2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が中間貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、地域ごとの有形固定資産の記載を省略しております。

## 3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への営業収益のうち、中間損益計算書の営業収益の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

## (1株当たり情報)

第37期中間会計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)	
1株当たり純資産額	6,350円88銭
1株当たり中間純損失金額	76円95銭
なお、潜在株式調整後1株当たり中間純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。	
1株当たり中間純損失金額の算定上の基礎	
中間純損失（千円）	83,302
普通株主に帰属しない金額（千円）	-
普通株式に係る中間純損失（千円）	83,302
期中平均株式数（千株）	1,082

## (重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 第2【その他の関係法人の概況】

### 1 名称、資本金の額及び事業の内容

<訂正前>

#### (1) 受託会社

三井住友信託銀行株式会社

- ・資本金の額 342,037百万円（平成27年9月末日現在）  
（略）

<信託事務の一部委託先>

日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社

- ・資本金の額 51,000百万円（平成27年9月末日現在）  
（略）

#### (2) 販売会社

東海東京証券株式会社

- ・資本金の額 6,000百万円（平成27年9月末日現在）
- ・事業の内容 金融商品取引法に定める第一種金融商品取引業を営んでいます。

<訂正後>

#### (1) 受託会社

三井住友信託銀行株式会社

- ・資本金の額 342,037百万円（平成28年9月末日現在）  
（略）

<信託事務の一部委託先>

日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社

- ・資本金の額 51,000百万円（平成28年9月末日現在）  
（略）

#### (2) 販売会社

東海東京証券株式会社

- ・資本金の額 6,000百万円（平成28年9月末日現在）
- ・事業の内容 金融商品取引法に定める第一種金融商品取引業を営んでいます。

### 3 資本関係

<訂正前>

（持株比率5.0%以上を記載します。）

平成28年3月末日現在、該当事項はありません。

<訂正後>

（持株比率5.0%以上を記載します。）

平成28年12月末日現在、該当事項はありません。

## 独立監査人の監査報告書

平成28年6月3日

T & Dアセットマネジメント株式会社  
取締役会 御中

## 新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	蒲谷 剛史
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	伊藤 雅人

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられているT & Dアセットマネジメント株式会社の平成27年4月1日から平成28年3月31日までの第36期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について監査を行った。

## 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

## 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

## 監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、T & Dアセットマネジメント株式会社の平成28年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

## 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は、当社が、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。
2. X B R L データは監査の対象には含まれていません。

[次へ](#)

## 独立監査人の監査報告書

平成29年2月13日

T & Dアセットマネジメント株式会社  
取締役会 御中

## 新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員	公認会計士	蒲谷 剛史
業務執行社員		
指定有限責任社員	公認会計士	伊藤 雅人
業務執行社員		

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているリビング・アース戦略ファンド（年2回決算コース）の平成28年6月22日から平成28年12月15日までの計算期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

## 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

## 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

## 監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、リビング・アース戦略ファンド（年2回決算コース）の平成28年12月15日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する計算期間の損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

## 利害関係

T & Dアセットマネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は、当社が、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。
2. XBR Lデータは監査の対象には含まれていません。

[次へ](#)

## 独立監査人の中間監査報告書

平成28年12月5日

T & Dアセットマネジメント株式会社  
取締役会 御中

## 新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	蒲谷 剛史
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	伊藤 雅人

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられているT & Dアセットマネジメント株式会社の平成28年4月1日から平成29年3月31日までの第37期事業年度の中間会計期間（平成28年4月1日から平成28年9月30日まで）に係る中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益計算書、中間株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について中間監査を行った。

## 中間財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

## 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した中間監査に基づいて、独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準は、当監査法人に中間財務諸表には全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得るために、中間監査に係る監査計画を策定し、これに基づき中間監査を実施することを求めている。

中間監査においては、中間財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するために年度監査と比べて監査手続の一部を省略した中間監査手続が実施される。中間監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要な応じて追加の監査手続が選択及び適用される。中間監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。また、中間監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め中間財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

## 中間監査意見

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、T & Dアセットマネジメント株式会社の平成28年9月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する中間会計期間（平成28年4月1日から平成28年9月30日まで）の経営成績に関する有用な情報を表示しているものと認める。

## 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は、当社が、中間監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。  
2. X B R L データは中間監査の対象には含まれていません。

[前へ](#)